2027年3月期 第2四半期
決算説明会資料

2026年11月2日

株式会社エフピコ

証券コード：7947

本資料取り扱いのご注意

掲載する情報に関しまして、細心の注意を払っております。将来の予測等に関する情報は、現時点で入手可能な情報にもとづき、当社が判断した予測であり、潜在的なリスクや不確実性が含まれています。そのため、様々な要因の変化により実際の業績は、記述している将来見通しとは大きく異なる結果となる可能性があります。

本資料に掲載する情報の、**無断での引用や転載、複製は禁じられております。**

目次

- *2026年3月期 第2四半期決算概要　…　4*
- 企業価値拡大に向けて　…　*17*
- 添付資料　…　*56*

2027年3月期 第2四半期
決算概要

専務取締役　経理財務本部本部長
池上 功

2027年3月期 第2四半期決算サマリー

上期実績
（前年同期比）

売上高1,290億円（＋95億円 +8.0%）　営業利益109億円（+16億円 +18.1%）　経常利益110億円（+16億円 +18.1%）　純利益74億円（+10億円 +15.6%）

原料価格の高騰に対して価格改定を実施、2Qより本格反映
製品販売数量　103.6%

価格改定

2026年6月1日出荷分より20%以上の価格改定を実施、2Qより本格反映
コストに応じた適正価格での販売を通じて収益性の維持・向上を図る
・リサイクル原料の活用により製品価格の改定幅を抑制
・リサイクル原料の配合比率を引き上げることで、原料高の影響を緩和

販売数量

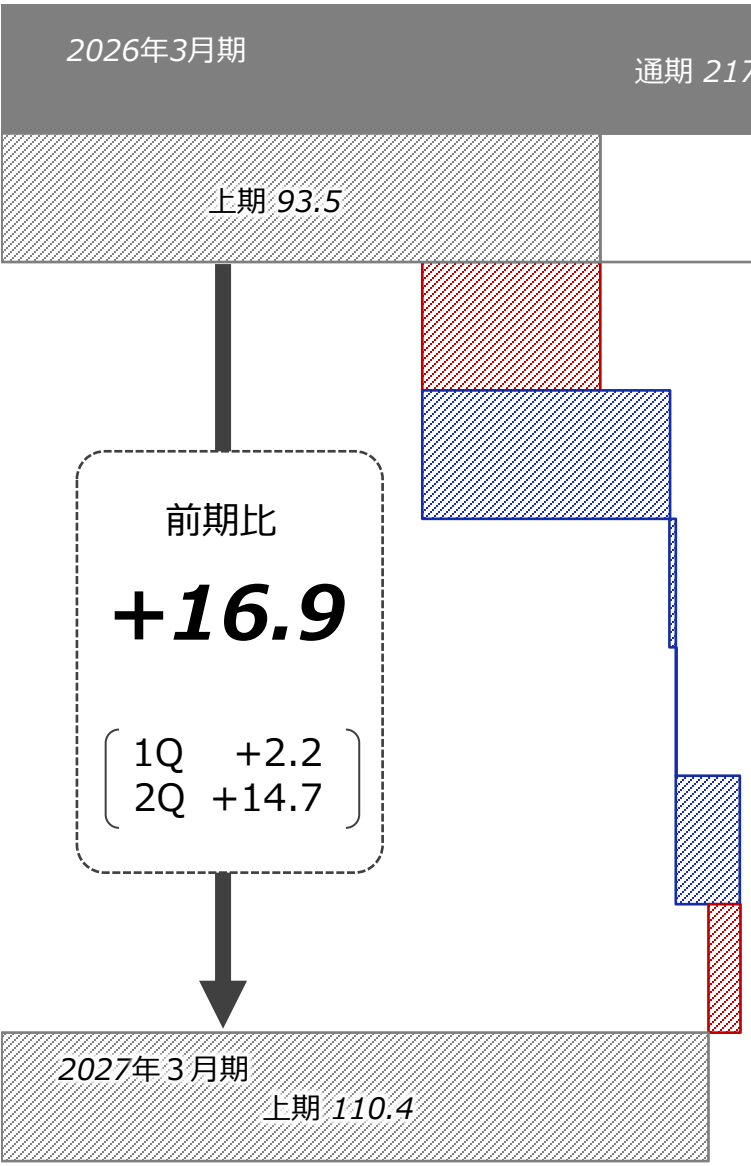
エコ製品の販売が堅調に推移
２Ｑ ・価格改定前の駆け込み需要の反動
・９月における関東地方を中心とした記録的な長雨などの天候不順が消費に影響
・価格改定後のコスト抑制ニーズへの対応により、1.5ポイント程度の押し下げ影響

株主還元

✓ **中間配当金　1株当たり36円50銭（５円00銭 増配）**

経常利益　利益増減実績（2027年3月期 第2四半期累計）

単位：億円



原料価格 ▲27.8
（1Q ▲6.0、2Q ▲21.8）

市況 ▲33.1
エコPET原料 +5.3

バージン原料の高騰を
エコPET原料が緩和

販売活動（数量・MIX 製品価格改定） +38.7
（1Q +4.5、2Q +34.2）

第２四半期より
価格改定効果が本格反映

生産 +1.0
（1Q +1.0、2Q ±0.0）

物流 ±0.0
（1Q +1.0、2Q ▲1.0）

グループ会社 +10.0
（1Q +4.5、2Q +5.5）

改善効果	+21.7
人件費・労務費	▲4.1
減価償却費	+0.9
電力	▲4.7
運送費	▲2.8

第２四半期より
価格改定効果が本格反映

経費 ▲5.0
（1Q ▲2.8、2Q ▲2.2）

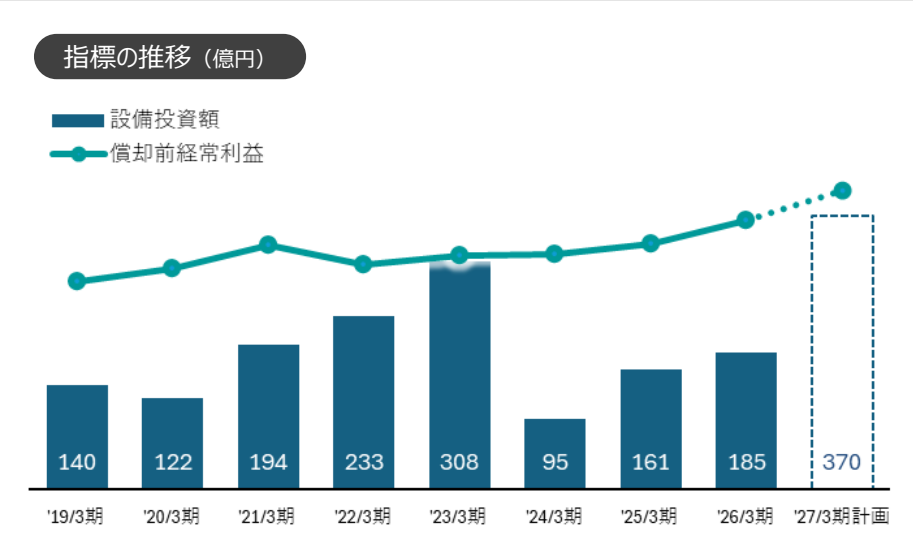
人件費	▲1.6
減価償却費	▲0.3
その他	▲3.1

設備投資・研究開発費（2027年3月期 第2四半期累計実績）

(百万円)	上期 実績				上期計画		通期計画	
	2026年3月期	2027年3月期			2027年3月期		2027年3月期	
	実績	実績	増減	前年比	計画	計画比	計画	進捗率
有形固定資産	7,724	16,888	+9,163	218.6%	18,700	90.3%	36,500	46.3%
無形固定資産	160	184	+24	115.1%	300	61.6%	500	37.0%
設備投資	**7,885**	**17,073**	+9,187	216.5%	**19,000**	89.9%	**37,000**	46.1%
減価償却費	**7,268**	**7,213**	▲55	99.2%	**7,300**	98.8%	**14,500**	49.7%
研究開発費	**874**	**999**	+124	114.3%	-	-	**2,080**	48.1%

(百万円)

【主な設備投資】	稼働時期	投資総額	上期実績	通期計画
■既存素材製品に関する投資				
自動化設備の導入			214	495
筑西倉庫	2026年12月	1,473	401	1,033
金型			896	1,980
■新素材「新OPP」への投資				
坂東工場・配送センター（仮称）	2028年9月竣工	58,000	10,671	22,023
神辺積層ライン	2026年11月	1,497	347	1,076
■ＩＴ投資			305	504



貸借対照表（2027年3月期 第2四半期累計実績）

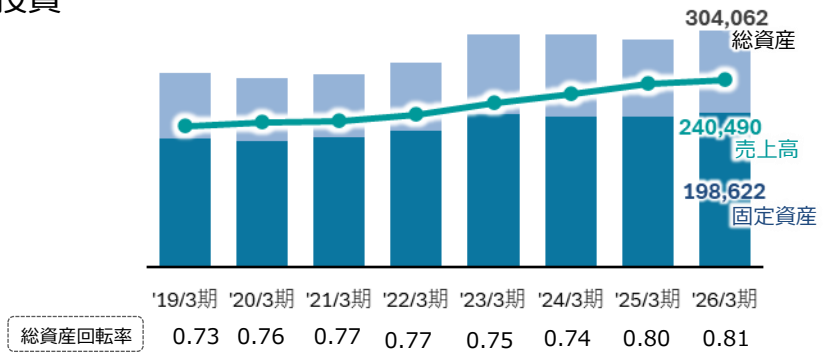
（百万円）	前連結会計年度 2026年3月期 2026/3/31	上期 2027年3月期 2026/9/30	増減	前年比	主な増減内訳	
流動資産	105,439	110,650	+5,210	104.9%	受取手形及び売掛金	+5,412
固定資産	198,622	209,610	+10,987	105.5%	建設仮勘定	+11,292
資産 合計	**304,062**	**320,261**	+16,198	105.3%		
流動負債	86,218	98,459	+12,240	114.2%	買掛金 短期借入金	+6,246 +3,512
固定負債	52,672	52,460	▲211	99.6%		
負債 合計	**138,891**	**150,920**	+12,028	108.7%		
純資産 合計	**165,171**	**169,340**	+4,169	102.5%	利益剰余金	+4,073
負債純資産 合計	**304,062**	**320,261**	+16,198	105.3%		
自己資本比率	**54.1%**	**52.6%**				

資産
- ●オリジナル製品の能力増強と安定供給への戦略投資
- ●インフラ活用による取引先との連携強化

負債
- ●戦略投資の原資として借入金の活用

純資産
- ●低利での資金調達に向けたA格の維持
- ●株主還元の充実強化

売上高・総資産推移（百万円）



キャッシュ・フロー（2027年3月期 第2四半期累計実績）

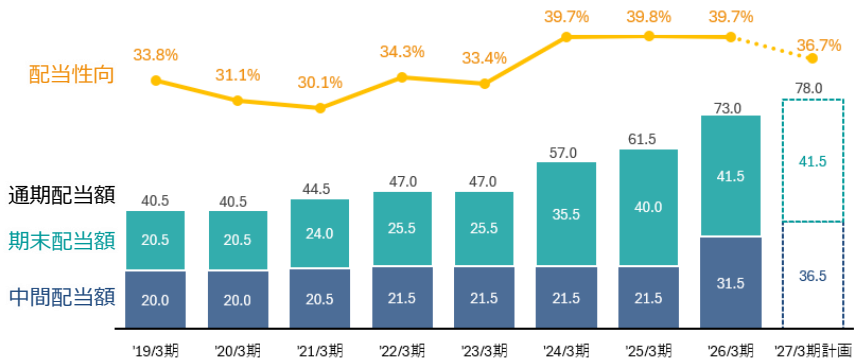
（百万円）	上期 2026年3月期 実績	上期 2027年3月期 実績	主な内訳	
営業活動によるC/F	11,613	14,751	税金等調整前中間純利益 減価償却費 法人税等の支払額	10,988 7,213 ▲ 3,811
投資活動によるC/F	▲ 6,798	▲ 16,756	有形固定資産の取得 （内、坂東工場・配送センター（仮称） ▲10,666）	▲ 16,641
フリーキャッシュフロー	4,815	▲ 2,005		
財務活動によるC/F	▲ 3,052	▲ 1,890	長期借入による収入 長期借入金の返済による支出 配当金の支払額	9,000 ▲6,871 ▲3,354
現金及び現金同等物の増減額	1,762	▲ 3,895		
現金及び現金同等物の中間期末残高	20,782	21,582		

営業CF
- ●製品価格改定効果が反映
- ●オリジナル製品販売と製品の軽量化による利益確保

投資CF
- ●収益基盤整備に向けた戦略投資

財務CF
- ●株主還元の充実強化
  配当性向40%を目途とし累進配当

配当の推移（円）



※当社は、2020年10月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。
2019年3月期の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、配当金額を記載しております。

2027年3月期
計画

2027年3月期 計画サマリー

通期
（前年同期比）

売上高	営業利益	経常利益	純利益
2,640億円 （＋235億円 +9.8%）	258億円 （＋41億円 +19.4%）	258億円 （＋40億円 +18.5%）	172億円 （＋23億円 +15.7%）

生産性の向上と価格改定の浸透、リサイクル原料の活用により、売上高、各段階損益いずれも過去最高を見込む

下期
（前年同期比）

売上高	営業利益	経常利益	純利益
1,349億円 （＋139億円 +11.5%）	148億円 （＋25億円 +20.3%）	147億円 （＋23億円 +18.8%）	97億円 （＋13億円 +15.7%）

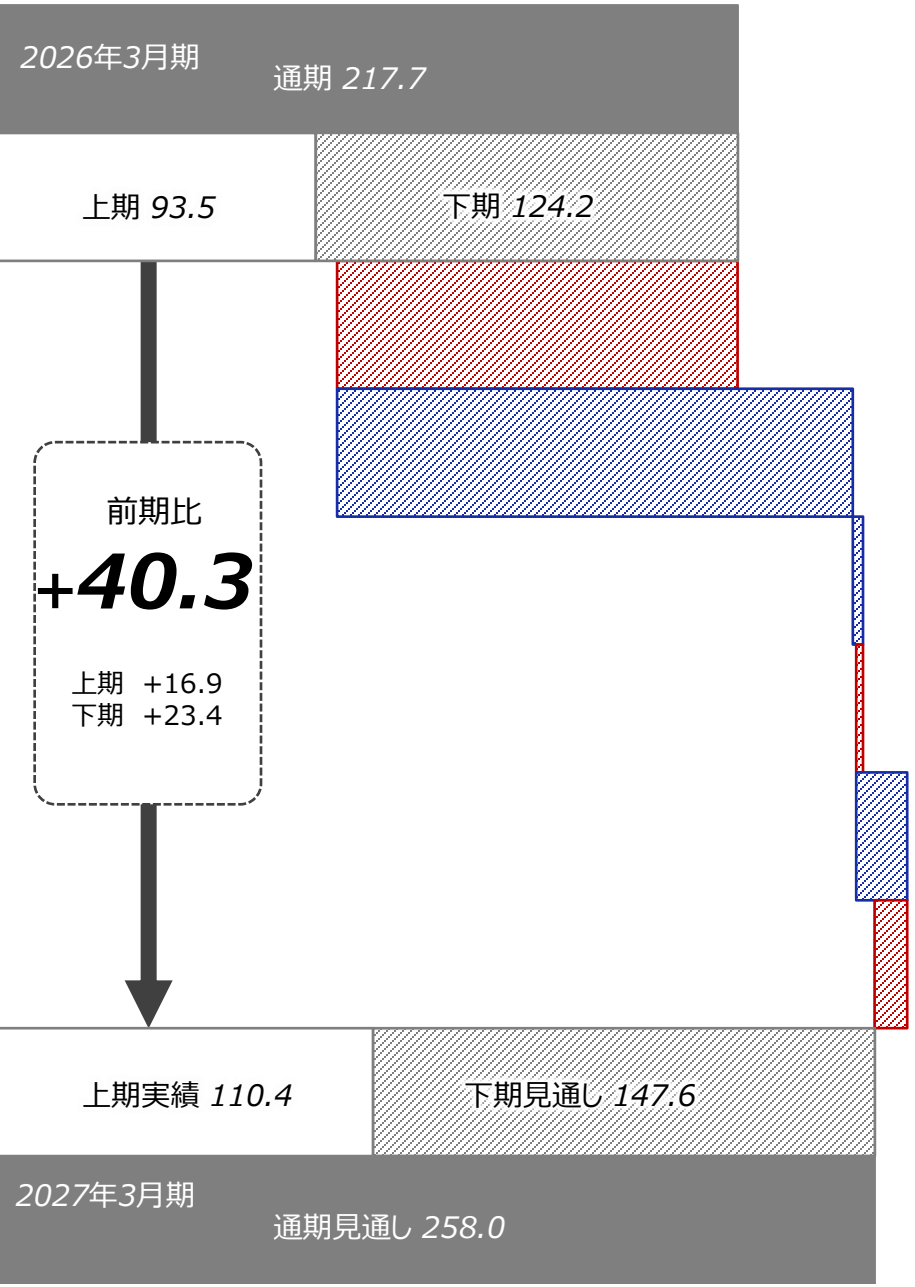
販売数量

通期　102.8%
下期　102.0%　マーケットニーズに応じた製品、エコ製品の拡販により堅調な推移を見込む
コスト抑制ニーズへの対応

株主還元

- ✓ **年間配当金は1株当たり78円00銭を予定（中間36円50銭、期末41円50銭）**
- ✓ **目途とする連結配当性向 40%、原則として減配せず、累進配当を実施**

経常利益　利益増減見通し（2027年3月期）



単位：億円

原料価格　▲117.8
（上期 ▲27.8、下期 ▲90.0）

市況	▲125.1
エコPET原料	+7.3

原料価格の高止まり
エコPET原料によるコスト緩和

販売活動（数量・MIX改善 製品価格改定）**+151.7**
（上期 +38.7、下期 +113.0）

価格改定効果が反映

生産　+3.0
（上期 +1.0、下期 +2.0）

物流　▲2.0
（上期 ±0.0、下期 ▲2.0）

グループ会社　+15.0
（上期 +10.0、下期 +5.0）

改善効果	+40.6
人件費・労務費	▲10.2
減価償却費	+1.9
電力	▲11.7
運送費	▲4.6

価格改定効果が反映

経費　▲9.6
（上期 ▲5.0、下期 ▲4.6）

人件費	▲3.1
減価償却費	▲1.0
その他	▲5.5

補足資料

決算概要（2027年3月期 第2四半期累計実績）

（百万円）	上期 実績 2026年3月期 実績	2027年3月期 実績	増減	前年比	数量
トレー	23,054	24,907	+1,852	108.0%	103.1%
弁当・惣菜	67,018	72,373	+5,355	108.0%	103.8%
小計	90,072	97,281	+7,208	108.0%	103.6%
その他製品	1,576	1,898	+322	120.4%	
製品売上高	**91,648**	**99,179**	+7,530	108.2%	
包装資材	26,792	28,796	+2,004	107.5%	
その他商品	1,019	1,033	+14	101.4%	
商品売上高	**27,811**	**29,830**	+2,018	107.3%	
売上高	**119,460**	**129,009**	+9,549	108.0%	
営業利益	**9,296**	**10,978**	+1,681	118.1%	
経常利益	**9,346**	**11,039**	+1,693	118.1%	
親会社株主に帰属する中間純利益	**6,425**	**7,430**	+1,004	115.6%	
償却前経常利益	**16,614**	**18,252**	+1,638	109.9%	

特記事項

＜製品＞

- 製品枚数　前年同期比 103.6%
- 2026年６月出荷分より価格改定を実施

＜商品＞

- 中東情勢を背景とした駆け込み需要および価格改定
- 当社グループのインフラを活用した効率化提案
- PB品の販売強化

＜海外＞

- LSSPI社収益性向上

前年比

(%)	1Q実績	2Q実績	上期実績
製品売上高	106.8	109.6	108.2
商品売上高	107.6	106.9	107.3
経常利益	105.6	127.7	118.1
製品枚数	106.1	101.3	103.6

利益率

(%)	1Q実績	2Q実績	上期実績
営業利益率	6.7	10.1	8.5
経常利益率	6.9	10.1	8.6
純利益率	4.6	6.8	5.8

計画概要（2027年3月期）

（百万円）	通期実績 2026年3月期 実績	通期 計画 2027年3月期 計画	増減	前年比
トレー	47,042	51,944	+4,901	110.4%
弁当・惣菜	134,161	148,045	+13,884	110.3%
小計	181,204	199,989	+18,785	110.4%
その他製品	3,298	3,840	+541	116.4%
製品売上高	**184,503**	**203,830**	+19,326	110.5%
包装資材	53,796	57,895	+4,099	107.6%
その他商品	2,190	2,274	+84	103.8%
商品売上高	**55,986**	**60,170**	+4,183	107.5%
売上高	**240,490**	**264,000**	+23,509	109.8%
営業利益	**21,614**	**25,800**	+4,185	119.4%
経常利益	**21,768**	**25,800**	+4,031	118.5%
親会社株主に帰属する当期純利益	**14,869**	**17,200**	+2,330	115.7%
償却前経常利益	**36,362**	**40,300**	+3,937	110.8%

特記事項

＜製品＞

- 製品枚数　前年比 102.8%
- 価格改定効果が反映

＜商品＞

- 当社グループのインフラを活用した効率化提案
- PB品の販売強化

＜海外＞

- LSSPI社収益性向上

前年比

(%)	上期実績	下期計画	通期計画
製品売上高	108.2	112.7	110.5
商品売上高	107.3	107.7	107.5
経常利益	118.1	118.8	118.5
製品枚数	103.6	102.0	102.8

利益率

(%)	上期実績	下期計画	通期計画
営業利益率	8.5	11.0	9.8
経常利益率	8.6	10.9	9.8
純利益率	5.8	7.2	6.5

IR活動の強化



エフピコ統合報告書2026
2026年10月発行

◆主要なコンテンツ

- **トップメッセージ**
- **社外取締役メッセージ**
- **競争優位性**

統合報告書を通じた対話の充実により
さらなる企業価値向上を図ります

企業価値拡大に向けて

代表取締役会長 兼 エフピコグループ代表
佐藤 守正

目次

01. 業績の概況

02. マーケットの動向を踏まえた製品戦略

03. エコ戦略

04. 災害時の安定供給

05. 海外展開と新素材への挑戦

06. 成長戦略

01. 業績の概況

02. マーケットの動向を踏まえた製品戦略

03. エコ戦略

04. 災害時の安定供給

05. 海外展開と新素材への挑戦

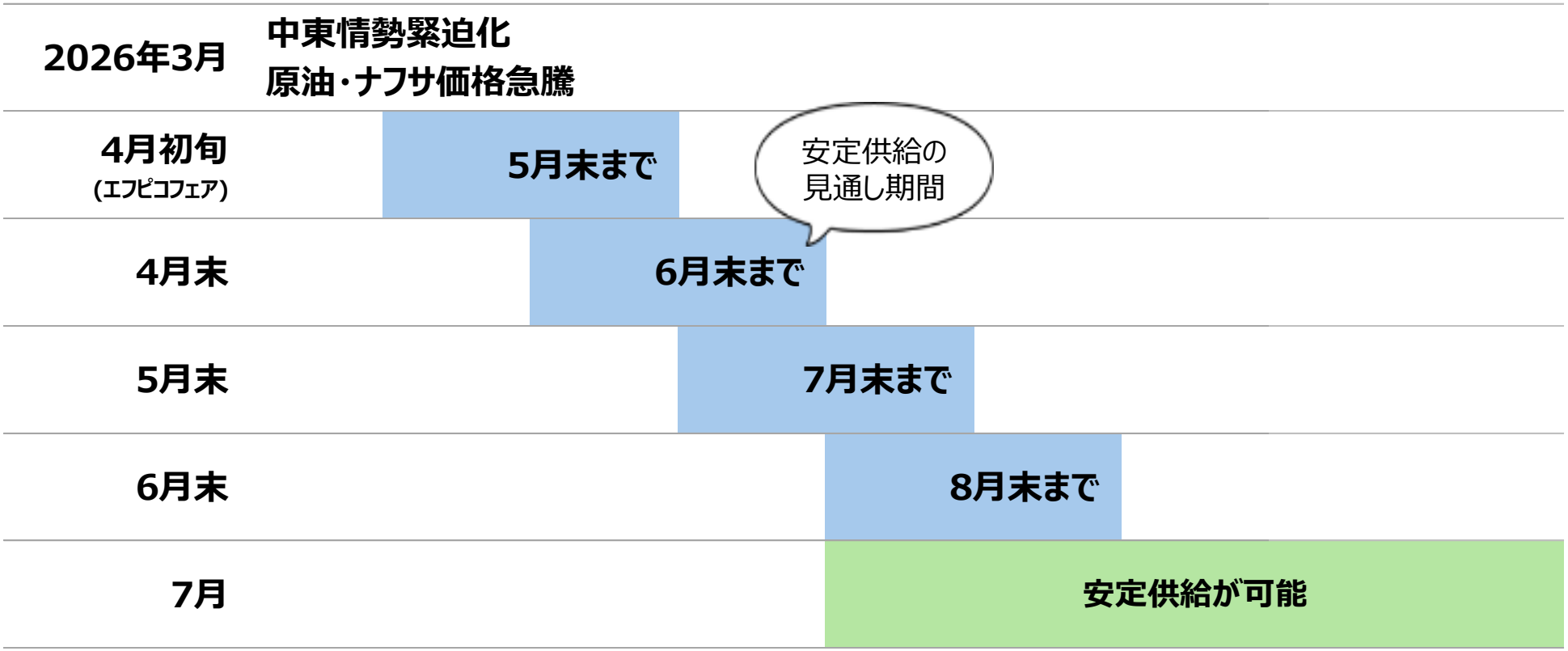
06. 成長戦略

業績予想の発表

- 2027年3月期 過去最高の業績を計画
- 原料高に対して価格改定が浸透
- 継続した安定供給が可能

（単位：百万円）	前期 通期実績	当期 通期計画	前年比 増減額	前年比
売上高	240,490	264,000	+23,509	109.8%
営業利益	21,614	25,800	+4,185	119.4%
経常利益	21,768	25,800	+4,031	118.5%
親会社株主に帰属する 当期純利益	14,869	17,200	+2,330	115.7%

安定供給の見通し

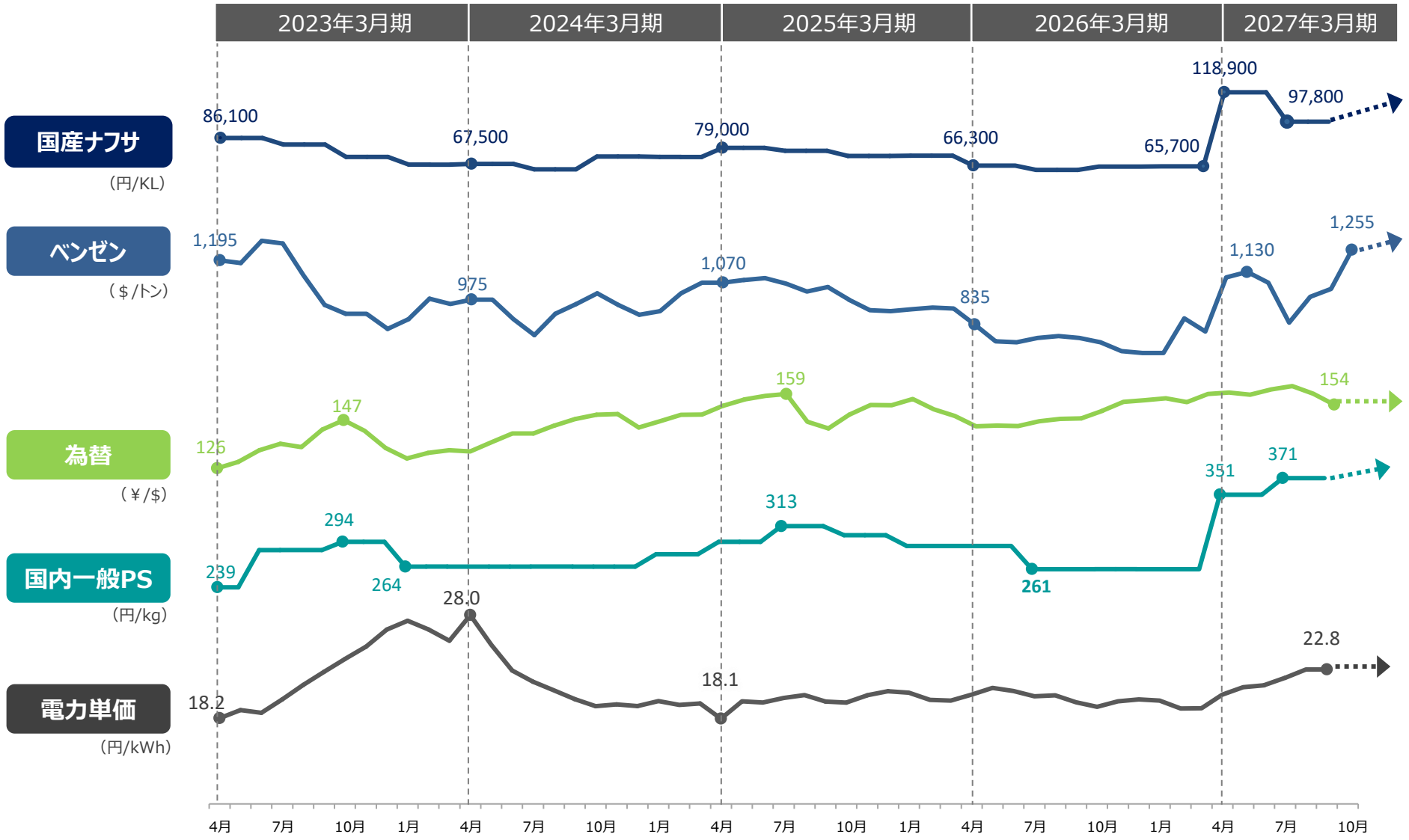


当社の対応

- ◆ 調達ルートの多様化の検討
- ◆ リサイクル原料の配合比率アップ

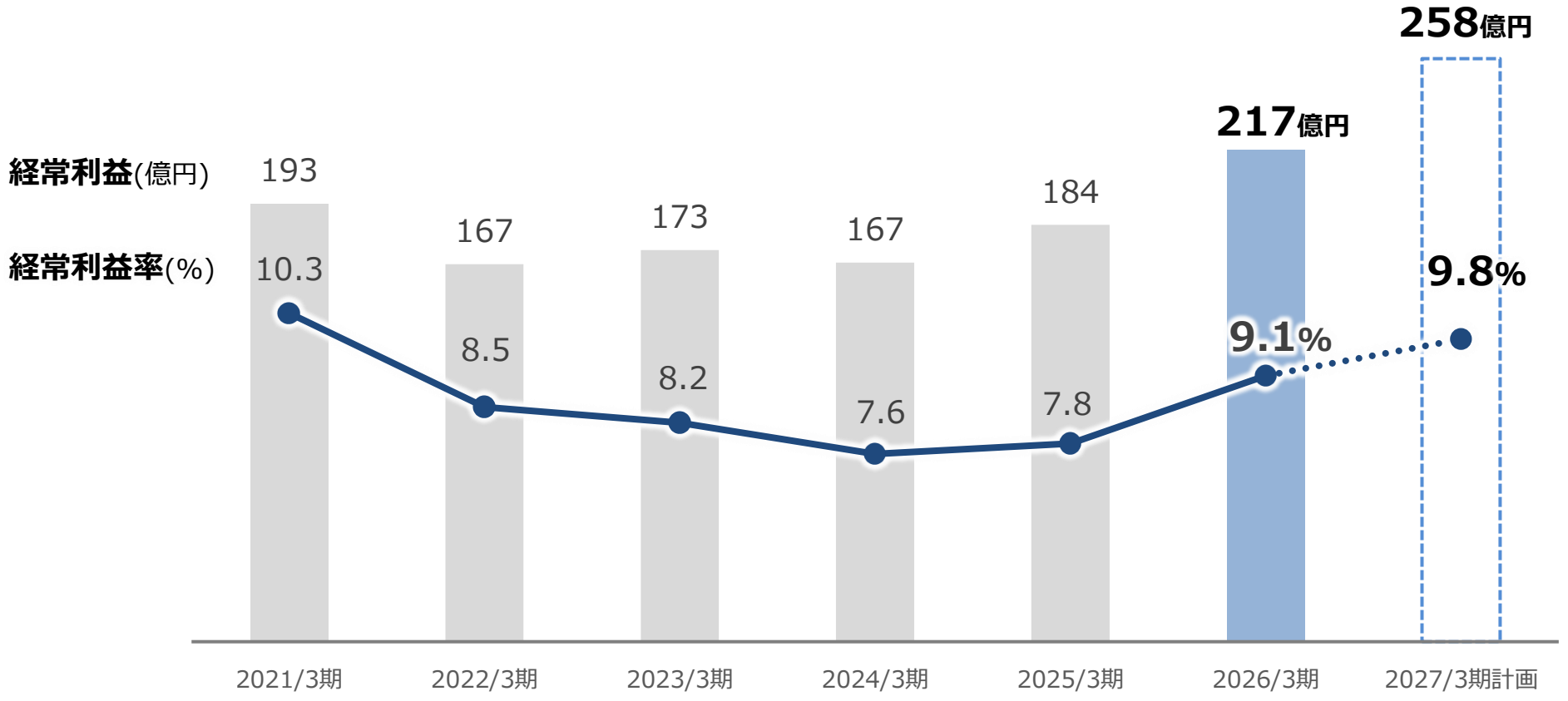
原料と電力価格の動向

（2026年11月時点）



価格イニシアティブの確立

2022/3期以降、原料価格の高騰が続く中、5年間で4回の値上げを実施し収益性を確保



製品価格改定実施時期

①2021/12/1～　②2022/6/1～　③2024/7/1～　④2026/6/1～

製品販売数量

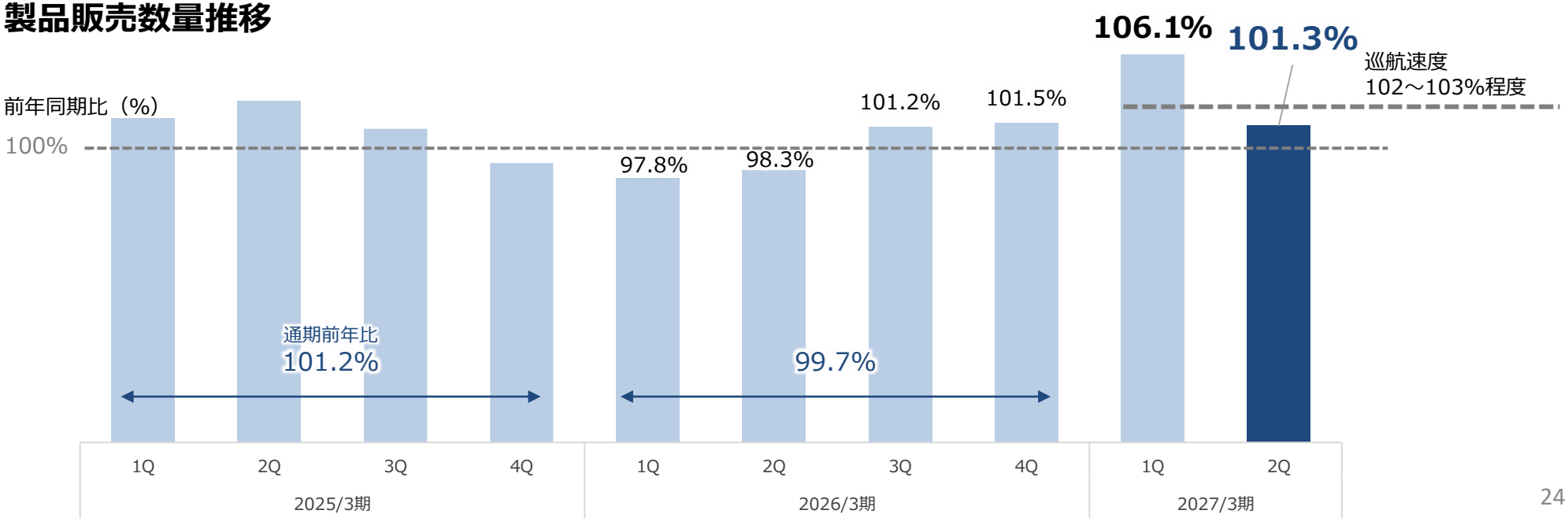
巡航速度

- 2026/4以降、エコ製品の堅調な販売により102～103%程度で推移

特殊要因

- 1Q：ナフサ不足懸念に関する報道や価格改定の実施を前に、一過性の駆け込み需要が発生
- 2Q：駆け込み需要の反動
  関東地方を中心とした記録的な長雨などの天候不順が消費に影響
  コスト抑制ニーズ（例：蓋付き容器⇒ラップ包装）への対応による数量影響△1.5%程度

製品販売数量推移



01. 業績の概況

02. マーケットの動向を踏まえた製品戦略

03. エコ戦略

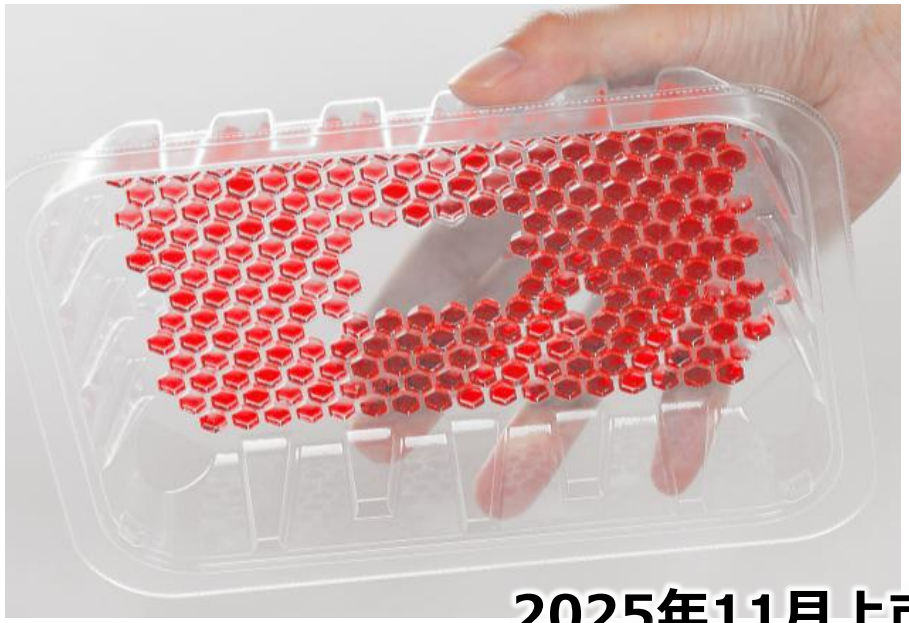
04. 災害時の安定供給

05. 海外展開と新素材への挑戦

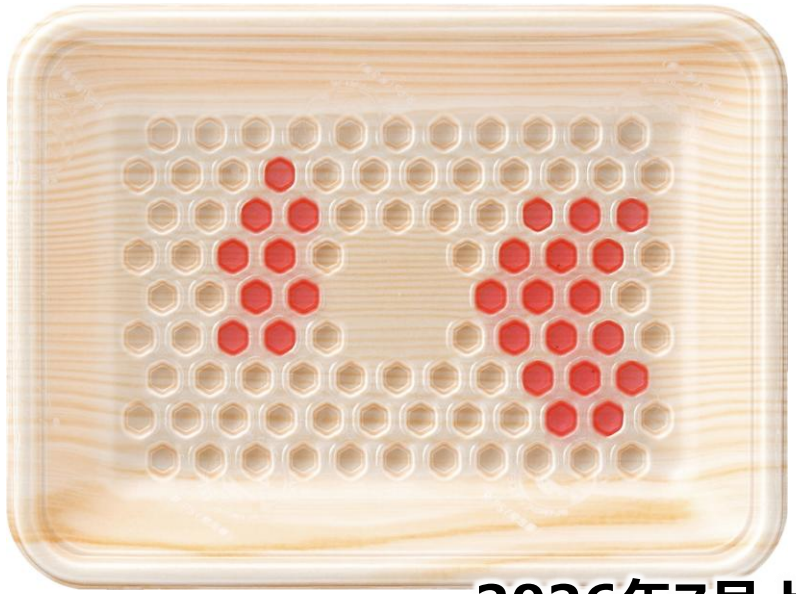
06. 成長戦略

新製品「ドリップポケット® シリーズ」

人手不足やコスト削減ニーズに対応



2025年11月上市



2026年7月上市

特許技術による成形精度と表面張力の活用で
汎用容器を高付加価値化

- ▶ **吸水紙が不要**
- ▶ **吸水紙を敷く手間が不要**

成長マーケット 冷凍・医療介護給食

人手不足を背景に

チルド ⇒ 冷凍

リターナブル容器 ⇒ ファーストユース容器

への移行が進む

リターナブル容器

- **都度調理**
- **厨房業務の４割が食器洗浄**



ファーストユース容器

- **冷凍弁当の活用**

  計画的な生産が可能
  冷凍・解凍技術が進歩
- **洗浄作業の軽減**



冷凍市場拡大　採用事例

スーパーマーケット・食品ベンダー

日本アクセス様



イオン
トップバリュ様



武蔵野
フーズ様



ライフコーポ
レーション様



医療介護・産業給食

日清医療
食品様



シルバー
ライフ様



WJUフード
システムズ様



【技術開発】定位置成形

真空圧空成形による定位置成形技術を確立

Point１ 生産性向上

従来の熱板成形と比較して
生産スピードが約2倍

Point２ 見栄え

食器のような柄付トレーで
食卓を演出

Point３ 全素材で実現

全素材で定位置成形が可能に



FT華小町

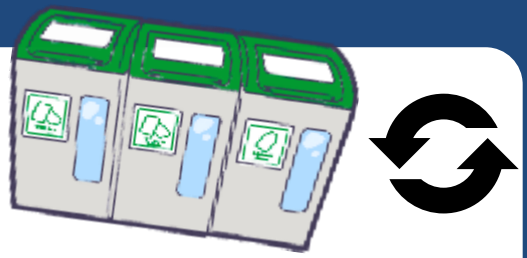
ファーストユース容器導入への懸念

懸念

- ゴミが増えることに対する心理的抵抗
- 産廃コストの増大



対応策 容器のリサイクル



- ✓ 食べ残しがあるとリサイクルが難しい
- ✓ リサイクルするには、
  洗浄を含めた運用を考慮する必要がある



【技術開発】フィルムを剥がせる容器

新製品

エフピコ

定位置成形技術によって フィルムを剥がせる容器が実現

イージーピール

FT華小町 耐寒華絵EP

2026年11月末 上市予定



【技術開発】フィルムを剥がせる容器

新製品

エフピコ



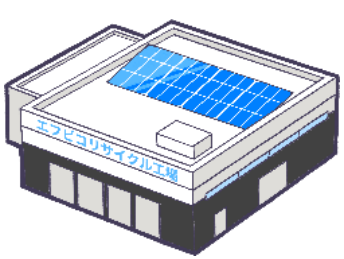


産廃処理は残渣を包み込んだフィルムのみ！

フィルムを剥がせる容器による回収・リサイクルモデル

エフピコ

生産・引取・リサイクル





納品

ディーラー／ベンダー

回収

同じ場所で
消費・集約

介護施設

提供・フィルムを剥がす・保管





洗浄不要	食後はフィルムを剥がすだけ
外部への散逸がない	施設内で消費・保管される
効率的な回収	重ねてコンパクトに保管、高い輸送効率

01. 業績の概況

02. マーケットの動向を踏まえた製品戦略

03. エコ戦略

04. 災害時の安定供給

05. 海外展開と新素材への挑戦

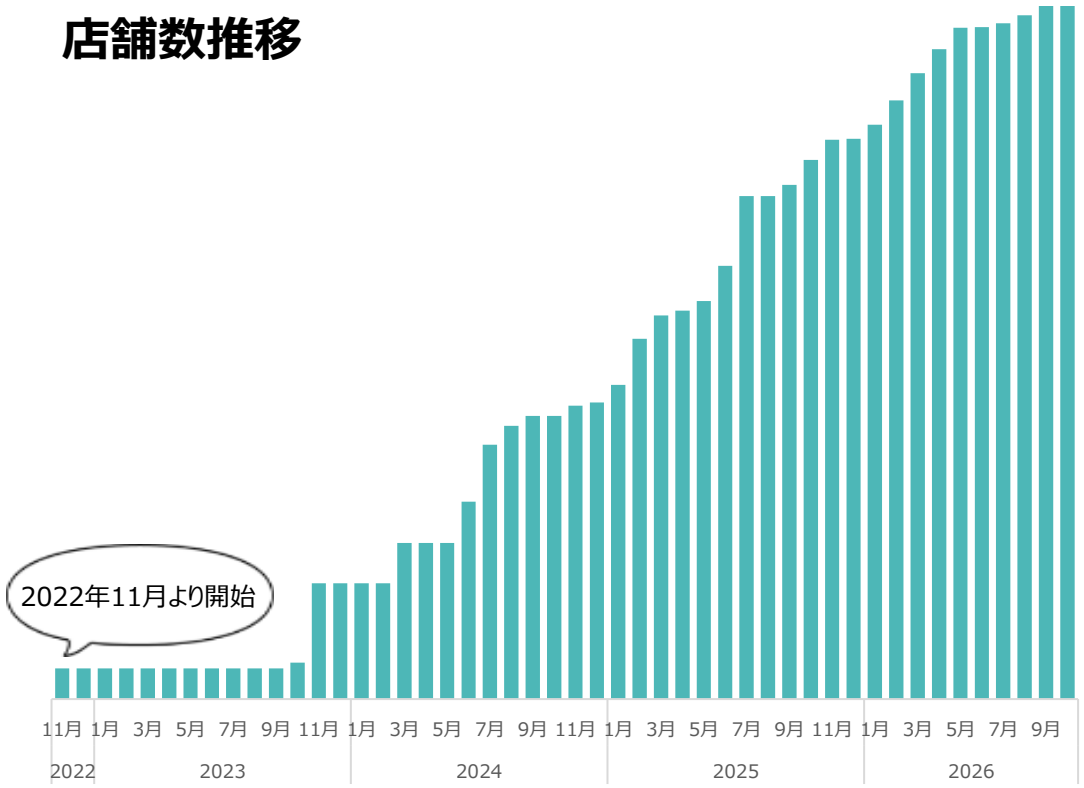
06. 成長戦略

「エコストア協働宣言」の拡大

※出典元：2025年度「スーパーマーケット白書」

✓ エコ製品の活用を通じたCO2削減
✓ 回収量拡大による資源循環の推進

店舗数推移



2026年10月末時点

158社 5,883店舗



2026.4 ㈱ダイエー様との共同記者会見

2028年3月期 210社 10,000店舗を目指す

（全国のスーパーマーケット総数：約23,000店舗※）

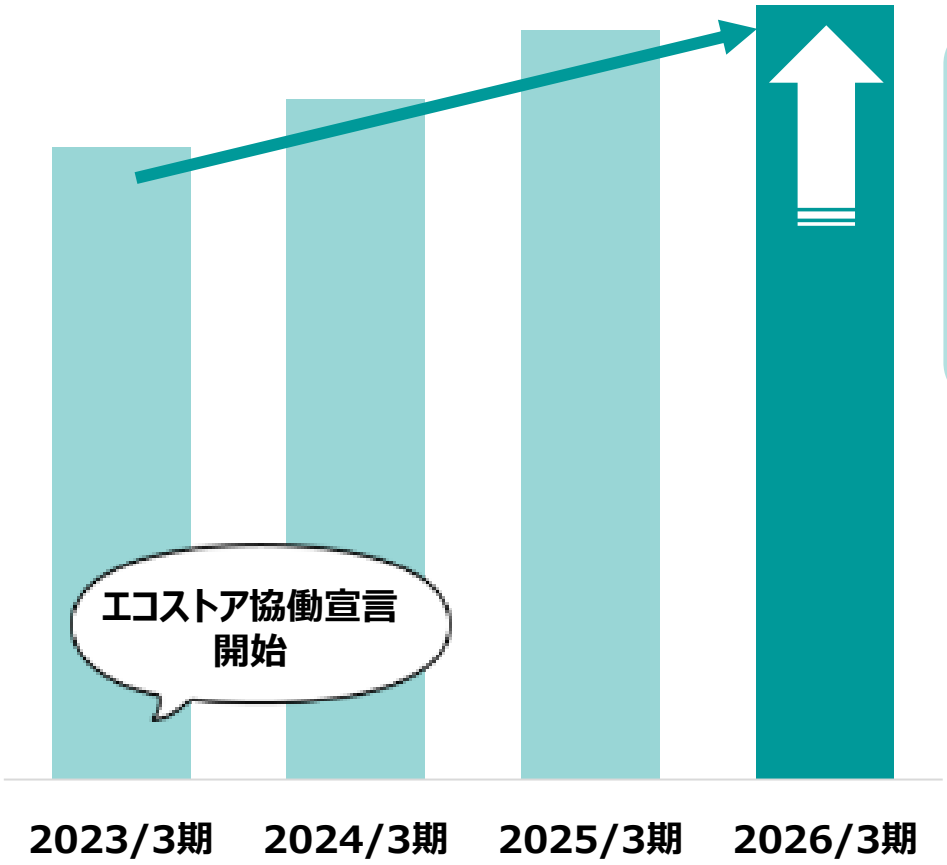
エコ製品の伸長

エコ製品 販売数量
（枚数ベース）

2023年3月期比

113.4%

製品全体
100.9%



スーパーマーケット様における
エコ製品の需要が拡大



リサイクルによる原料の安定調達

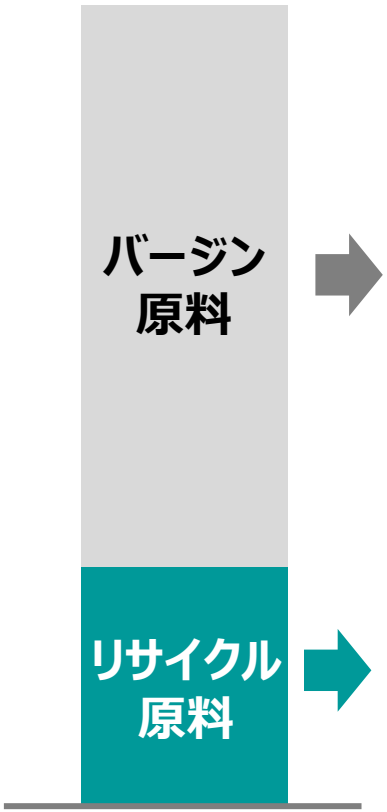
中東情勢が緊迫化した状況において、
リサイクル原料の活用により原料調達面での競争優位性を発揮

	一般的な原料調達	エフピコ
	原油由来100%	国内地上資源の循環 製品販売重量に対する 使用済み製品の回収重量比率 42%
調達リスク	中東リスクによる調達難	原料の安定調達
コスト	原油高・為替変動による 原価高騰	原料価格の安定化
市場への影響	大幅な製品値上げ	値上げ率の緩和

リサイクルの競争優位性

当社独自のリサイクルにより、環境面・販売面にとどまらず コスト面においても大きな競争優位性を確立

原料使用量の内訳イメージ



2027/3期上期 利益増減要因（前年同期比）

バージン原料 → 原料市況の値上がりにより **△33.1億円**

リサイクル原料 → エコPET原料の値下がりにより **＋5.3億円**

環境
地上資源の循環
CO2削減効果

販売
エコ製品の拡販
「エコストア協働宣言」の拡大

コスト
バージン原料の値上がりに対する
リサイクル原料のコスト抑制効果

2027/3期 上期 23億円(理論値)

業績・収益の安定化

01. 業績の概況

02. マーケットの動向を踏まえた製品戦略

03. エコ戦略

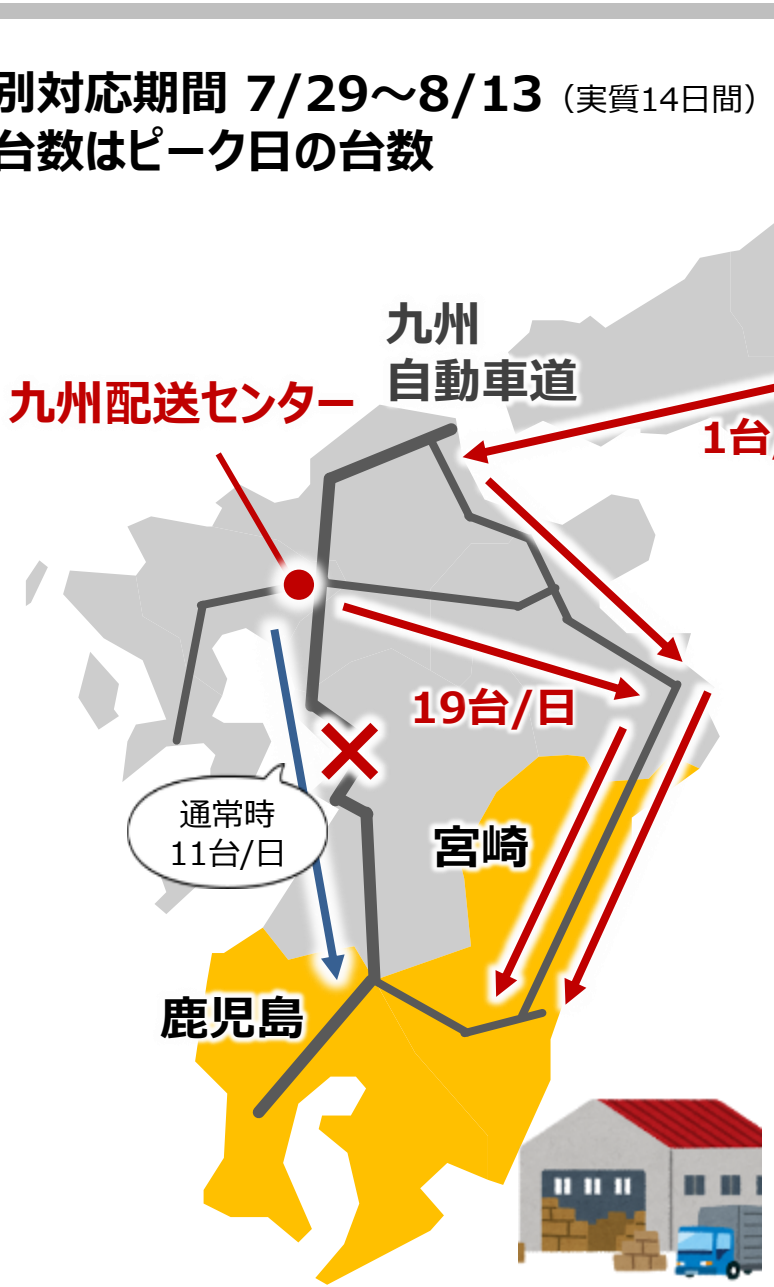
04. 災害時の安定供給

05. 海外展開と新素材への挑戦

06. 成長戦略

令和8年熊本地震への対応

特別対応期間 7/29～8/13（実質14日間）
※台数はピーク日の台数

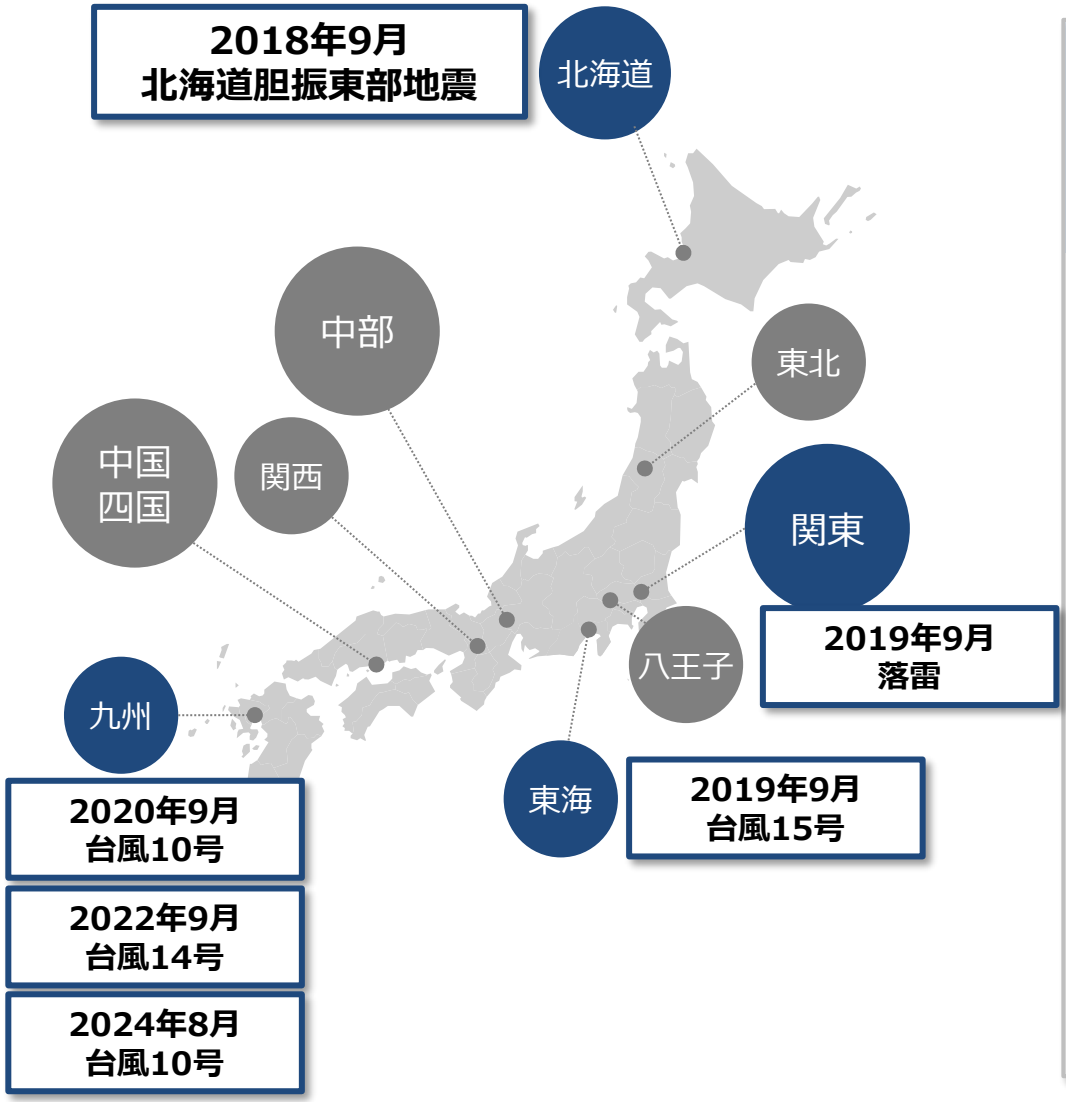


- ▶ 福山HCから九州HCに応援車輌を5台派遣
- ▶ 出荷拠点を柔軟に変更、福山から宮崎へ直送
- ▶ 地震発生翌日も納品を継続

地震災害発生以降も全日納品

自然災害とBCP

非常用自家発電設備の稼働により、安定供給を維持



災害時でも止まらない物流体制
“BCP(事業継続計画)”

- **72時間**の電力供給を確保
- 全国の主要物流23施設すべてに
  「非常用自家発電設備」「燃料備蓄」を配置
- 発電稼働を想定した訓練を年2回実施

非常用自家発電設備



燃料タンク



01. 業績の概況

02. マーケットの動向を踏まえた製品戦略

03. エコ戦略

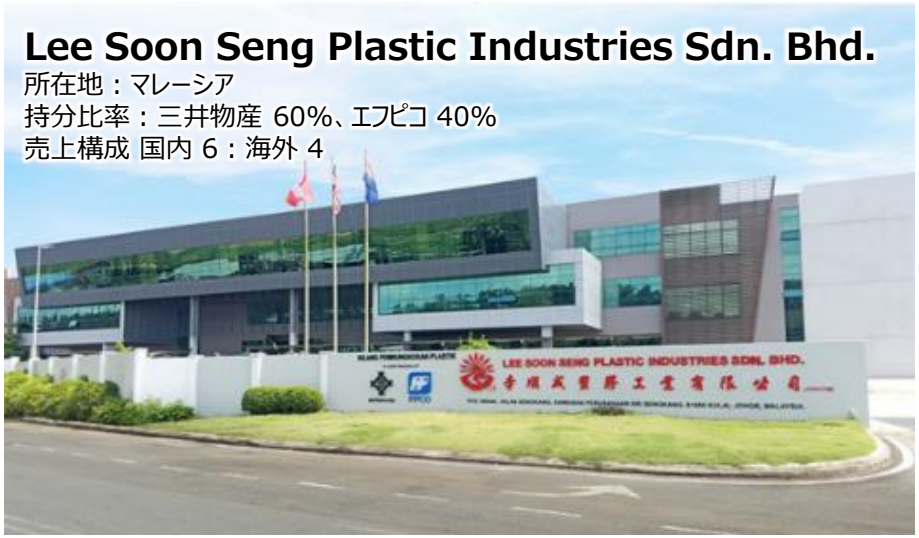
04. 災害時の安定供給

05. 海外展開と新素材への挑戦

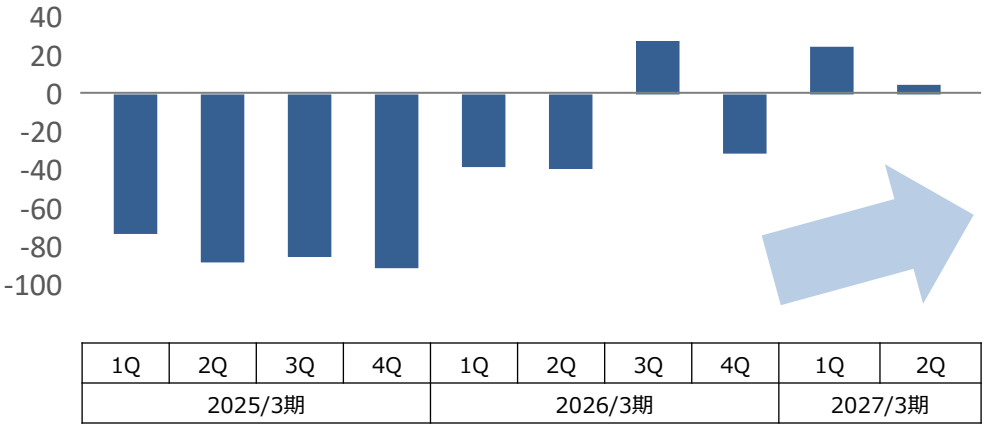
06. 成長戦略

海外 LSSPI社

生産性の向上が順調に進捗
売上・利益ともに改善が進み、2027年3月期より収益貢献を見込む



持分法投資損益（百万円）



ステップ1

3か年計画「2倍の生産性へ」

- ▶ 成形機、押出機等の新設備の導入
- ▶ 製品開発技術の向上
- ▶ 自動化、省人化の推進

ステップ2

マレーシア・シンガポールで圧倒的シェア獲得へ

- ▶ マーケティングの深化
- ▶ 市場ニーズを捉えた新デザイン容器の開発を加速

ステップ3

さらに拡大が期待される東南アジア市場の礎へ

海外 LSSPI社

東アジア人口：https://www.worldometers.info/ja/

● マーケットニーズに応える自社企画製品の開発販売



フルーツトレー



OPSフードパック

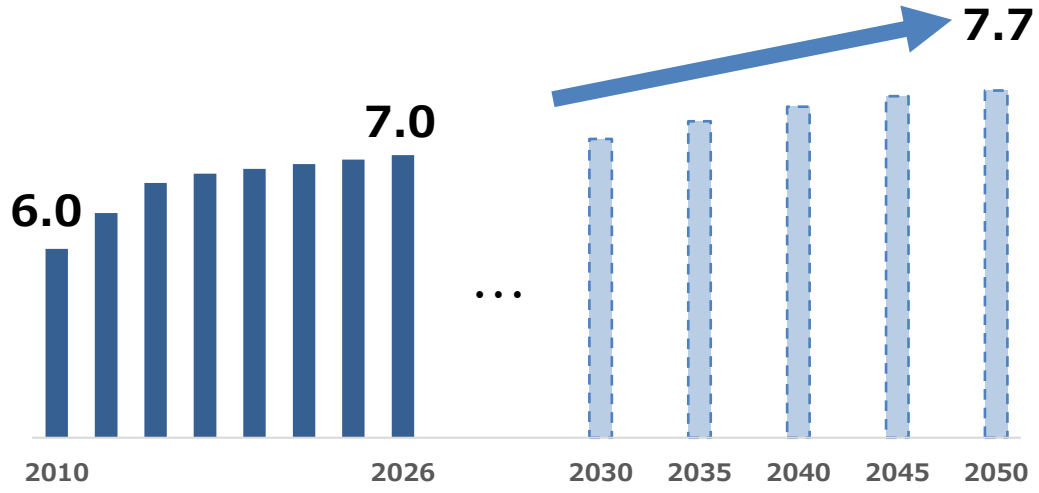


耐熱PP容器（汁漏れ抑制）

● 今後も人口増が想定される東南アジア諸国への進出



【東南アジアの人口予測（億人）**】**



新OPPとは

世界初・唯一となる2素材の開発に成功

超高剛性2軸延伸 ポリプロピレンシート（新OPPシート）

単層シート

- 厚さ：150～300ミクロン
- 食品容器用途：冷凍～耐熱まで幅広い温度帯に対応
- 工業製品用途：モビリティ部品などを想定

OPTENA オプテナ



新OPPシート透明容器サンプル

超高剛性2軸延伸 ポリプロピレンプレート（積層OPPプレート）

積層プレート

- 厚さ：1～4ミリ
- 工業製品用途：建設資材　住設資材　自動車などを想定

FORTENA フォルテナ



積層OPPプレート加飾成形品

秘密保持契約等：190件、サンプル出荷総数：286件（2026年9月時点）

坂東工場概要

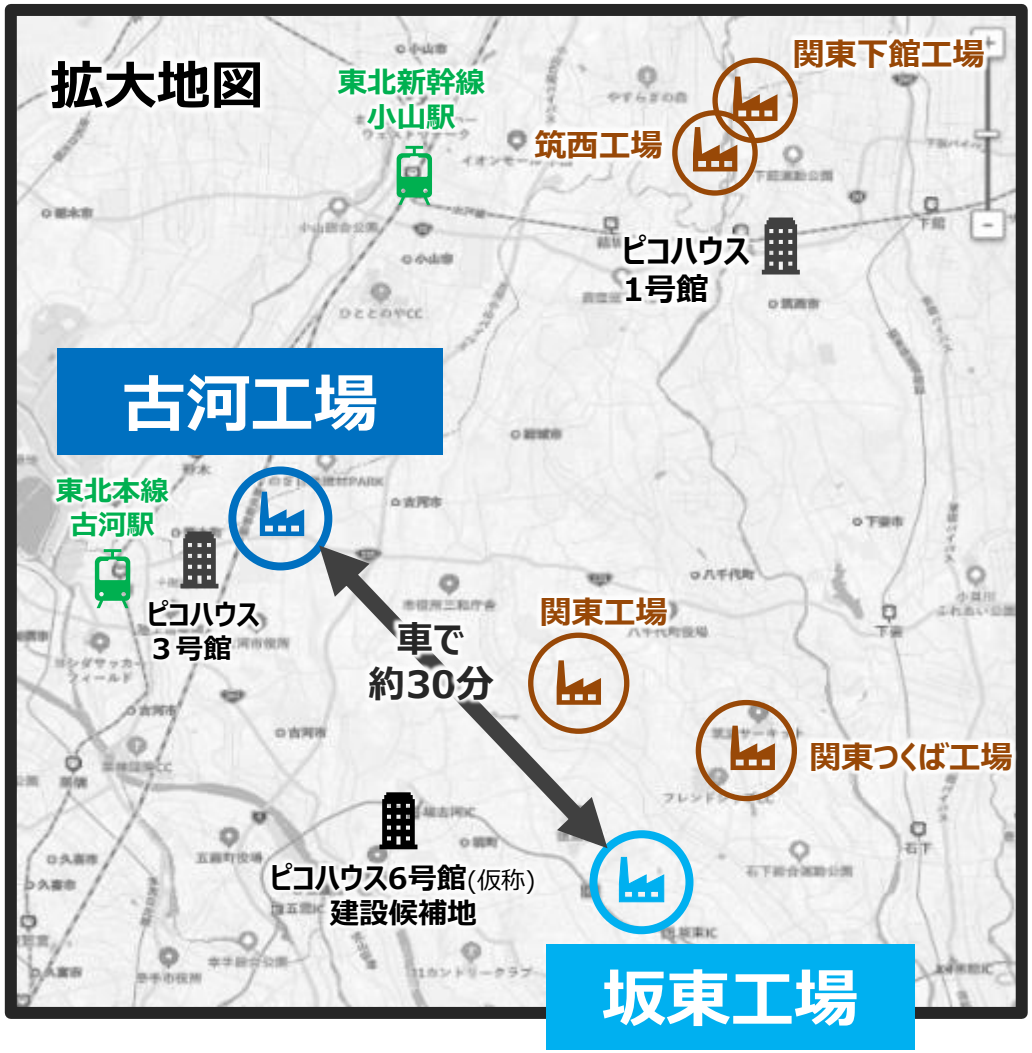
坂東工場・配送センター(仮称)
新OPPシートの生産/物流能力強化

竣工時期：2028年9月
総投資額：約580億円
※内、新OPP関連 約410億円
物流関連　約170億円
延床面積：83,103.51㎡



新OPP生産体制

「OPTENA®」から「FORTENA®」までの一貫生産体制



坂東工場

「OPTENA®」を製造

供給

古河工場

「FORTENA®」を積層加工

タイムライン

新OPPシート（OPTENA®）

2024年
4月 新OPPシートの開発成功を発表
11月 新OPPシート製造装置「LISIM」を発注

2026年
【神辺工場】
9月 真空圧空成形機 移設
食品容器向けの研究開発開始

2029年
【坂東工場】
商業生産開始

積層OPPプレート（FORTENA®）

2024年
4月 積層OPPプレートの開発成功を発表

2025年
9月 積層OPPプレート製造装置発注

2026年
【神辺工場】
10月 積層OPPプレート製造装置 据え付け開始

2027年
【神辺工場】
生産開始　研究開発およびマーケティングを加速

2029年
【古河工場】
商業生産開始

01. 業績の概況

02. マーケットの動向を踏まえた製品戦略

03. エコ戦略

04. 災害時の安定供給

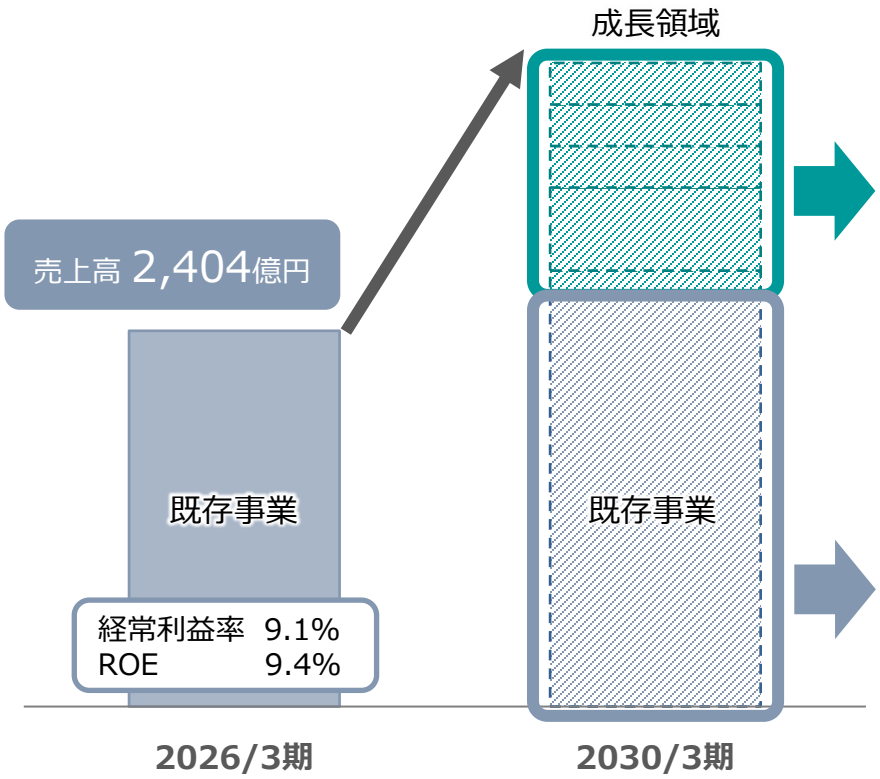
05. 海外展開と新素材への挑戦

06. 成長戦略

成長戦略

既存事業での安定的な成長に加えて、事業領域拡大により1桁後半の成長を目指す

’30/3期目標　売上高　3,000億円
経常利益　300億円



成長領域

成長領域における収益拡大により
利益率、ROEの水準を引き上げていく

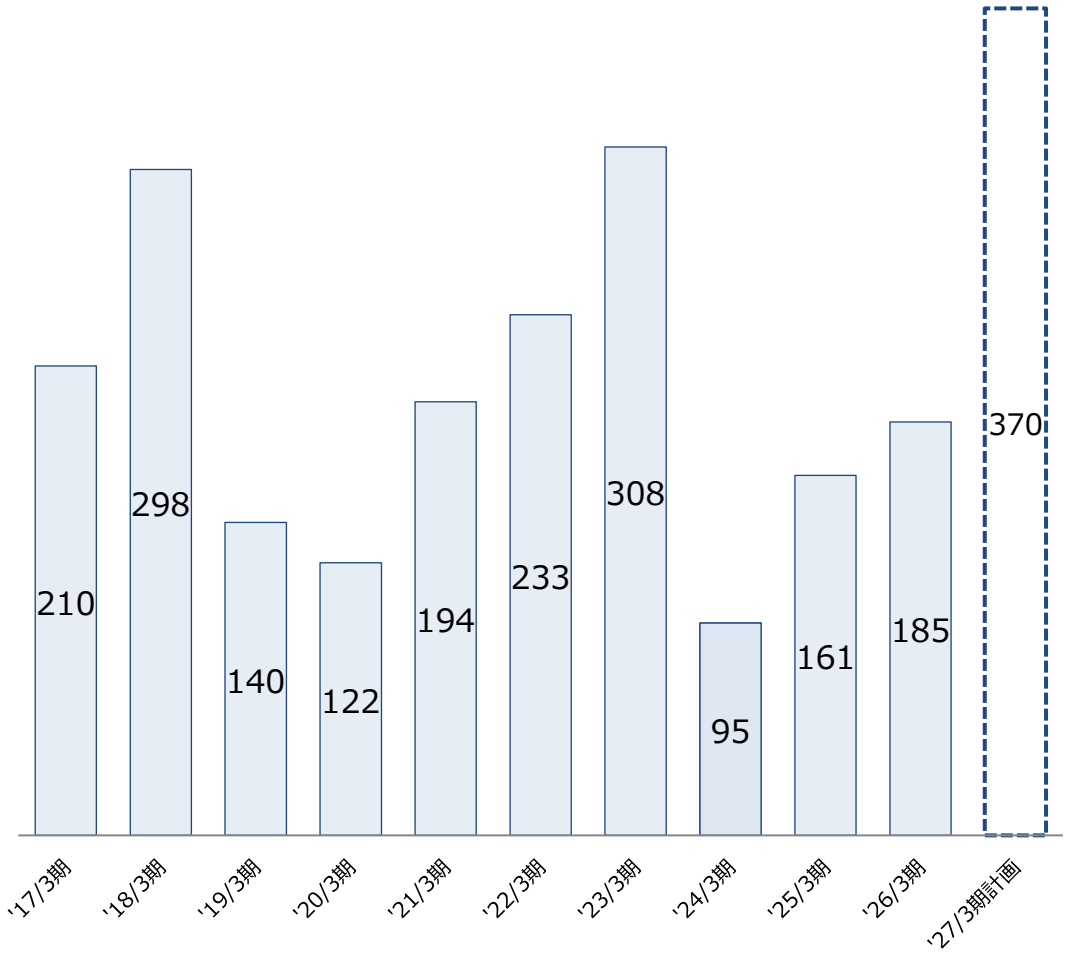
新OPP	50～100億円	新素材による事業領域の拡大
海外	100億円	既存事業の横展開や グループインフラの活用による マーケットの拡大
M&A	100億円	
冷凍	200億円	
農産	50億円	

既存事業

シェア拡大や収益性の向上により、
年平均2～3%の安定成長を見込む

戦略投資 実績

設備投資額（億円）



年平均 約200億円の投資を実施

- ✓ 生産・物流・リサイクルの強化
- ✓ 安定供給体制の確立
- ✓ 継続的なスクラップ＆ビルドによる生産性の向上
- ✓ 働く環境の整備

これまでの投資で構築したインフラ、安定的なキャッシュ創出力を中長期的な成長につなげる

戦略投資 3か年の見通し

2027/3期～2029/3期の3か年で1,100億円程度を想定

新OPP関連
550億円

- 坂東工場（仮称）建設
- 古河工場（仮称）増改築
- 新OPPシートによる高機能容器の開発
- 新OPPシート、積層OPPプレートによる産業分野における用途開発

既存事業・維持更新
550億円

- 坂東配送センター（仮称）による物流バックアップ
- スクラップ＆ビルドによる生産性向上
- 自動化投資
- 福利厚生施設の充実

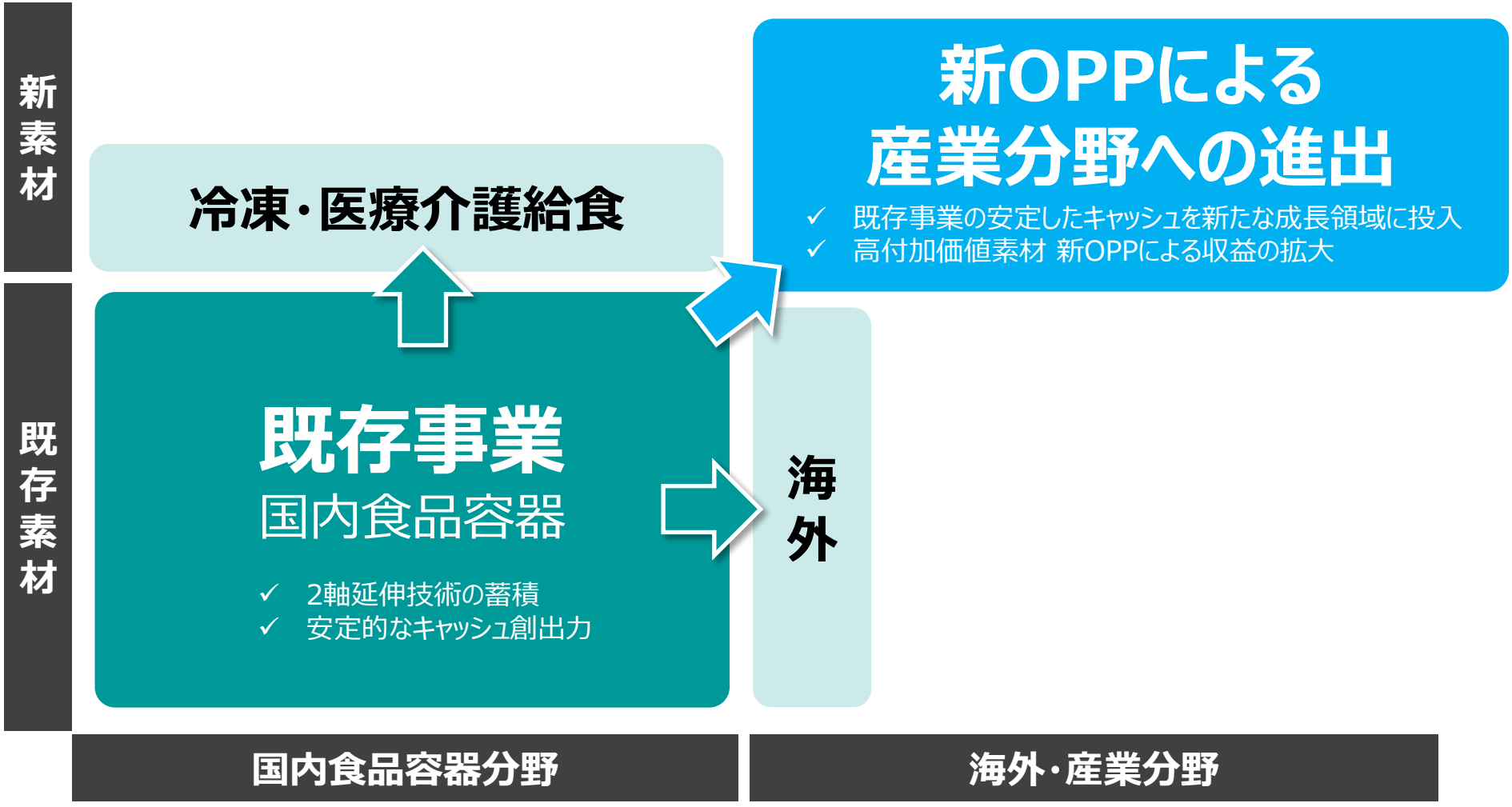
M&A検討

- グループインフラを活用した問屋連携
- 業界再編
- 海外事業の強化

新素材の事業化を推進するとともに、食品容器事業のさらなる強化とインフラ活用により、次代の事業基盤を構築

事業ポートフォリオの多層化

既存事業で培った技術力と安定的なキャッシュ創出力により事業ポートフォリオを多層化、より強固な収益基盤を構築する



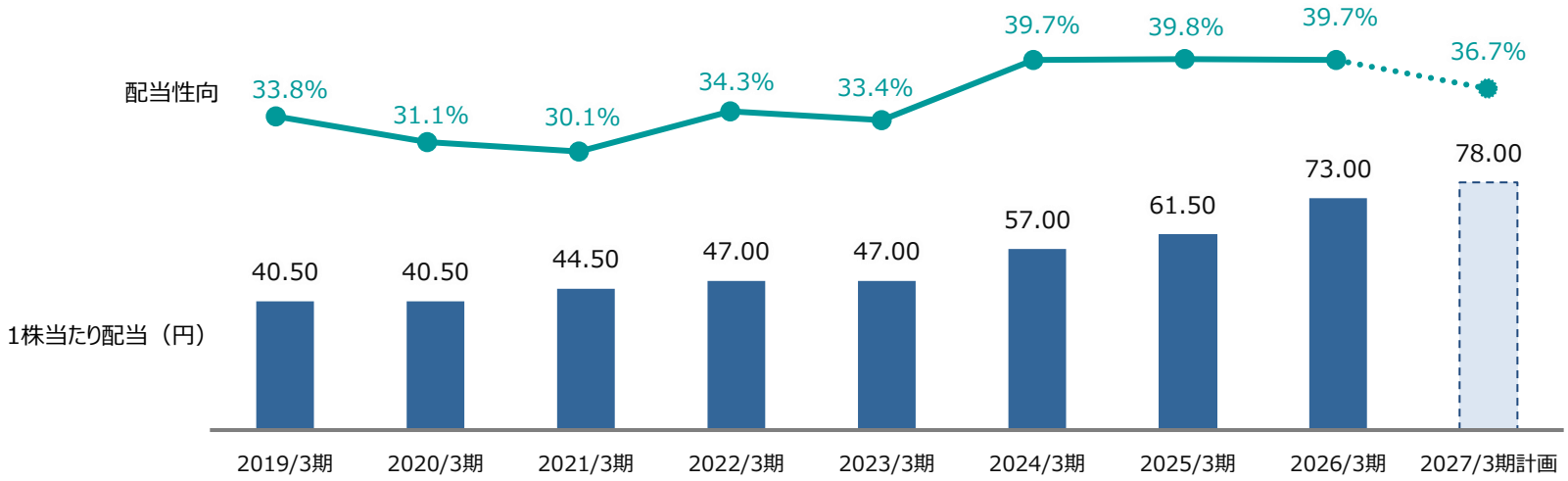
株主還元

● 配当方針

目途とする連結配当性向40%、原則として減配せず、累進配当を実施
中長期的な利益成長に応じた安定的な配当額の向上を目指す
▶2027/3期の1株当たり配当は、中間配当を5円増配し、78円を予定
▶1株あたり利益を高めることで増配を図る

● 自己株式の取得

財務の健全性を維持しつつ、戦略投資や株価水準等を勘案し、機動的・柔軟な還元を検討



（単位：億円）	2019/3期	2020/3期	2021/3期	2022/3期	2023/3期	2024/3期	2025/3期	2026/3期
配当	33	33	37	38	38	46	50	59
自己株式の取得	–	–	40	–	–	30	–	–
合計	33	33	77	38	38	76	50	59
総還元性向	33.8%	31.1%	62.7%	34.3%	33.4%	65.1%	39.8%	39.7%

企業価値拡大に向けて

「もっとも高品質で環境に配慮した製品を」

「どこよりも競争力のある価格で」

「必要なときに確実にお届けする」



添付資料

用語解説

★:オリジナル製品

PS	ポリスチレン
PET	ポリエチレンテレフタレート
PP	ポリプロピレン
★ エコトレー®（エコPSP™）	スーパーで店頭回収された発泡PS容器と工場内端材を原料とするリサイクル発泡PS容器（1992年販売開始）
★ エコAPET™	スーパーで店頭回収されたPET透明容器・PETボトル及び工場内端材を原料とする リサイクルPET透明容器（2012年販売開始） 耐熱温度＋60℃
★ エコOPET®	エコAPET容器と同じ原料を使用する二軸延伸PET（OPET）シートから成形したリサイクルOPET透明容器（2016年販売開始） 耐油性、透明性に優れ、OPS容器と同等の耐熱性を実現 耐熱温度+80℃
★ マルチFP®(MFP™)	冷凍温度帯から110℃の耐寒・耐熱性、耐油性及び断熱性に優れた発泡PS容器（2010年販売開始）
★ マルチSD®(MSD®)	マルチFPの端材を活用し、その特性を維持しつつシャープな形状を実現した非発泡PS容器（2012年販売開始） 耐熱温度＋110℃
★ 透明PP	標準グレードのPP原料から、OPSと同程度の透明度を実現した透明PP容器 耐熱温度＋110℃（2012年販売開始）
★ 低発泡PSP	非発泡容器と同等の強度及びシャープな形状を維持しながら、プラスチック使用量を削減した発泡PS容器 非発泡容器と比較して50%～60%軽量化
★ 耐寒 PPiP-タルク®	二種類の無機物を配合することで、従来品である耐寒PPと比較してプラスチック使用量を25%削減した耐寒PPフィラー容器 従来品と同等の耐寒衝撃性、天地圧縮強度を保持
OPS容器	従来からの二軸延伸PSシートから成形した透明容器 耐熱温度＋80℃
HIPS容器	剛性に優れ成形性が良い非発泡PS容器 耐熱温度+90℃
溶解分離リサイクル	マテリアルリサイクルにより生産された黒色PSペレットを溶解、脱色したうえで、食品容器向けの再生PS原料を生産する手法 DIC㈱が開発した世界初の技術
配送センター	製商品の入荷から受注・配車・出荷・トレー回収までを行う物流拠点
ハブセンター	複数の棟をソーターシステムで連結し、出荷の自動仕分け、集約を行う配送センター
DC（ディストリビューションセンター）	包材問屋向けにケース出荷を行う物流部門
PC（ピッキングセンター）	スーパーマーケット向けに小ロットでのピッキング、出荷を行う物流部門
選別センター	店頭回収した発泡PS容器を白と色に、透明容器をPS・PET・PP等の素材に選別するリサイクル拠点

業績推移①

※2022年3月期より収益認識会計基準変更、2021年3月期のみ遡及適用

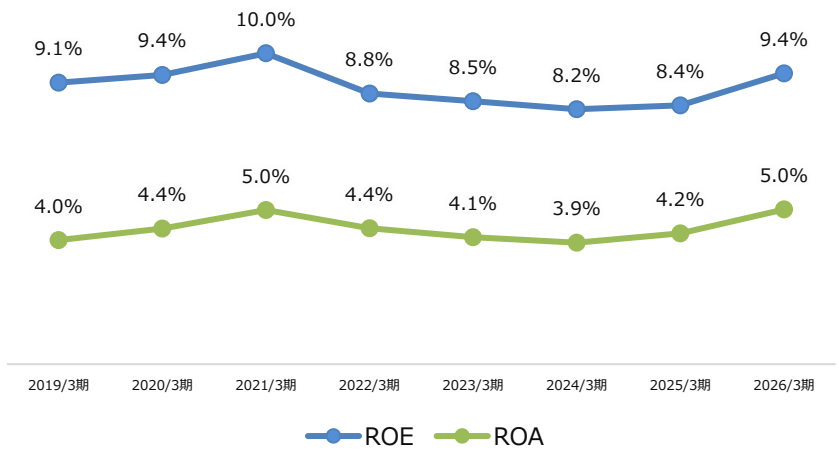
（百万円）

	2019/3期	2020/3期	2021/3期	2022/3期	2023/3期	2024/3期	2025/3期	2026/3期
売上高	181,171	186,349	187,509	195,700	211,285	222,100	235,628	240,490
営業利益	13,949	15,507	18,763	15,884	16,703	16,429	18,471	21,614
経常利益	14,861	16,274	19,381	16,703	17,328	16,780	18,451	21,768
純利益	9,901	10,777	12,211	11,206	11,529	11,724	12,486	14,869
償却前経常利益	28,031	29,807	32,991	30,340	31,509	31,833	33,203	36,362
売上高経常利益率	8.2%	8.7%	10.3%	8.5%	8.2%	7.6%	7.8%	9.1%
ROE	9.1%	9.4%	10.0%	8.8%	8.5%	8.2%	8.4%	9.4%
ROA（総資産純利益率）	4.0%	4.4%	5.0%	4.4%	4.1%	3.9%	4.2%	5.0%
EPS（円/株）	119.75	130.36	147.80	136.96	140.87	143.50	154.46	183.87
配当（円/株）	40.50	40.50	44.50	47.00	47.00	57.00	61.50	73.00
配当性向	33.8%	31.1%	30.1%	34.3%	33.4%	39.7%	39.8%	39.7%
自己株式取得	－	－	3,999	－	－	2,999	－	－
総資産	249,332	242,497	247,234	262,695	298,623	298,580	292,226	304,062
純資産	112,198	119,301	124,980	132,455	140,171	145,844	154,114	165,171
現預金	19,151	20,288	17,884	19,745	22,255	23,707	19,020	25,478
有利子負債	91,402	80,341	73,459	80,174	102,008	92,785	80,513	80,629
自己資本比率	44.8%	49.0%	50.3%	50.2%	46.7%	48.6%	52.5%	54.1%
設備投資	14,038	12,214	19,412	23,361	30,853	9,591	16,112	18,532
減価償却費	13,170	13,532	13,609	13,636	14,180	15,052	14,751	14,594
研究開発費	1,159	1,229	1,195	1,154	1,295	1,483	1,543	1,903
在庫回転月数（ヶ月）	1.54	1.48	1.44	1.44	1.56	1.57	1.55	1.58
リサイクル回収重量（トン）	75,730	82,700	85,000	83,330	91,400	90,500	90,000	90,000
リサイクル回収拠点数（カ所）	9,260	9,390	9,800	10,000	10,500	10,680	11,000	11,600

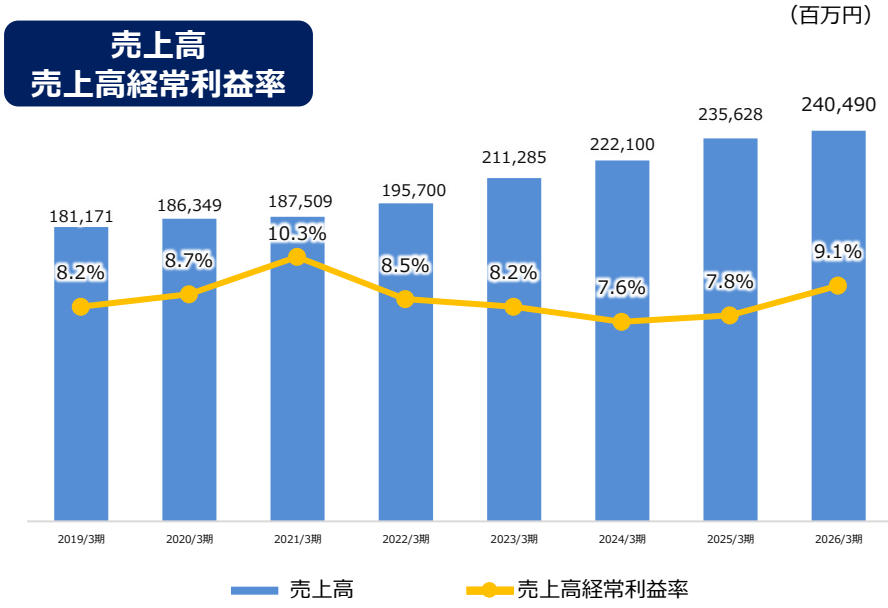
業績推移②

※2022年3月期より収益認識会計基準変更、2021年3月期のみ遡及適用

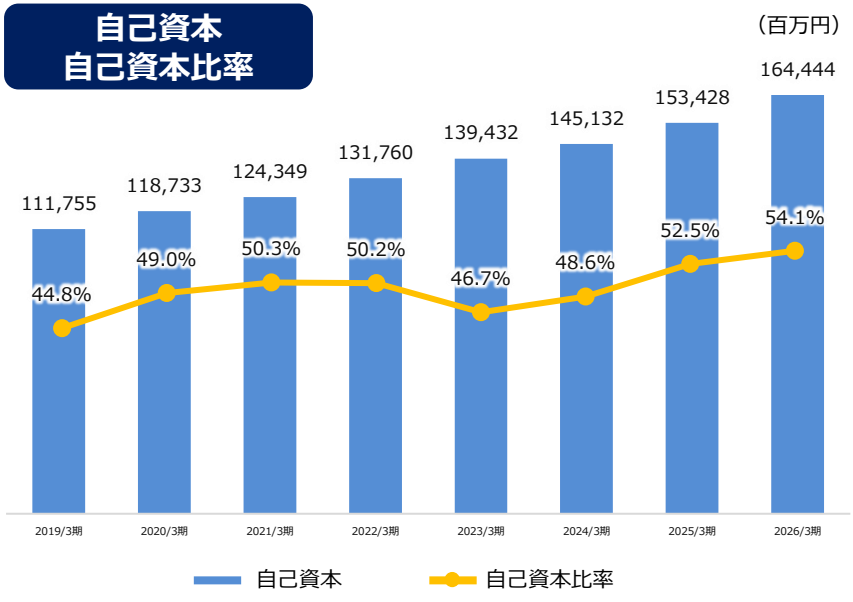
ROE ROA



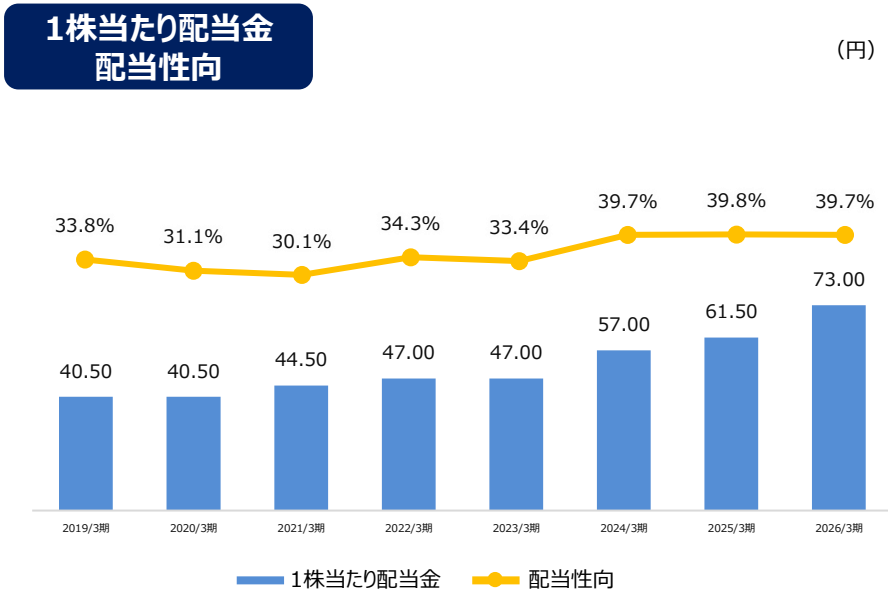
売上高 売上高経常利益率



自己資本 自己資本比率



1株当たり配当金 配当性向



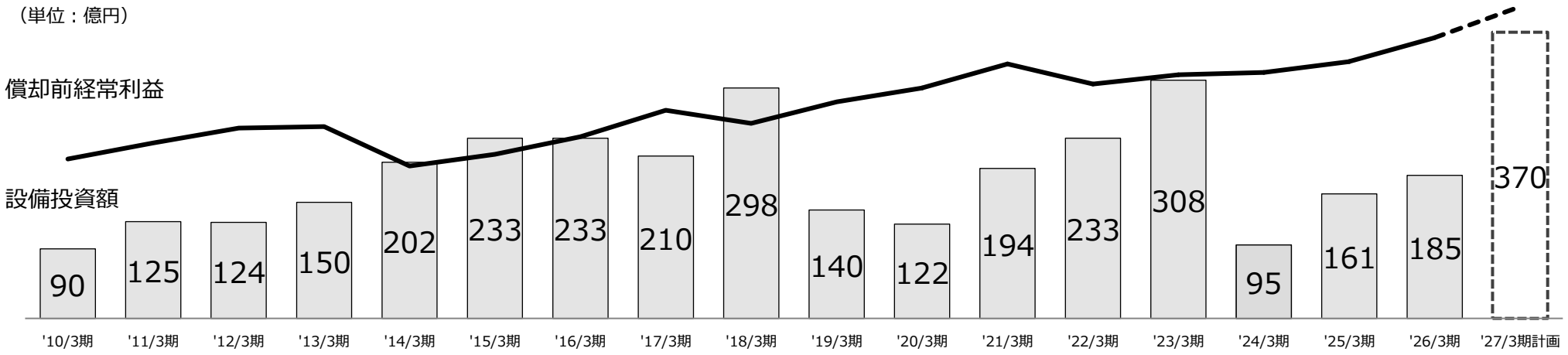
経常利益 増減要因 推移

単位：億円

	'19/3			'20/3			'21/3			'22/3			'23/3			'24/3			'25/3			'26/3			'27/3計画		
	上	下	通期	上	下	通期	上	下	通期	上	下	通期	上	下	通期	上	下	通期	上	下	通期	上	下	通期	上	下	通期
前期 経常利益	66.3	69.2	135.5	64.8	83.8	148.6	74.4	88.3	162.7	85.6	108.2	193.8	89.1	77.9	167.0	64.0	109.1	173.2	72.3	95.4	167.8	65.2	119.3	184.5	93.5	124.2	217.7
原料価格	-14.8	-15.5	-30.3	+2.5	+5.2	+7.7	+11.0	+3.0	+14.0	-9.9	-36.1	-46.0	-24.4	+23.8	-0.6	-17.5	-13.9	-31.4	-10.0	-23.0	-33.0	-5.0	+13.3	+8.3	-27.8	-90.0	-117.8
販売価格	+13.6	+28.0	+41.6	+10.5	-	+10.5																					
販売活動	+4.5	+7.2	+11.7	+3.5	+5.0	+8.5	+7.2	+9.8	+17.0	+11.0	+6.0	+17.0	+4.0	+3.5	+7.5	+56.3	+4.0	+60.3	+11.2	+60.0	+71.2	+45.0	+0.7	+45.7	+38.7	+113.0	+151.7
生産	-0.5	-	-0.5	+1.0	+1.5	+2.5	-1.5	+3.5	+2.0	+3.5	-1.5	+2.0	+1.5	-1.0	+0.5	-19.5	+7.4	-12.1	+3.0	-5.0	-2.0	-2.0	-5.5	-7.5	+1.0	+2.0	+3.0
物流	-1.5	-3.0	-4.5	-4.0	-3.5	-7.5	-0.5	+1.5	+1.0	+2.5	+2.5	+5.0	-	-	-	-4.0	-3.0	-7.0	-6.0	-5.7	-11.7	-7.0	-2.5	-9.5	±0.0	-2.0	-2.0
グループ会社	+0.5	+1.5	+2.0	+2.0	+0.1	+2.1	-0.7	+6.5	+5.8	+4.0	+2.0	+6.0	+2.0	+10.9	+12.9	-2.0	-3.7	-5.7	+3.0	±0.0	+3.0	-1.0	+1.5	+0.5	+10.0	+5.0	+15.0
経費増減	-3.3	-3.6	-6.9	-5.9	-3.8	-9.7	-4.3	-4.4	-8.7	-7.6	-3.2	-10.8	-8.1	-5.9	-14.0	-5.1	-4.4	-9.5	-8.3	-2.5	-10.8	-1.7	-2.6	-4.3	-5.0	-4.6	-9.6
増減 計	-1.5	+14.6	+13.1	+9.6	+4.5	+14.1	+11.2	+19.9	+31.1	+3.5	-30.3	-26.8	-25.0	+31.3	+6.3	+8.2	-13.7	-5.4	-7.1	+23.8	+16.7	+28.3	+4.9	+33.2	+16.9	+23.4	+40.3
当期 経常利益	64.8	83.8	148.6	74.4	88.3	162.7	85.6	108.2	193.8	89.1	77.9	167.0	64.1	109.2	173.3	72.3	95.4	167.8	65.2	119.3	184.5	93.5	124.2	217.7	110.4	147.6	258.0

価格改定含む

戦略投資



年間約200億円の投資水準

世界初の素材開発

2010年 マルチFP製品 上市
2012年 マルチソリッド製品 上市
エコAPET製品 上市
OPET製品 上市
新透明PP製品 上市
2016年 エコOPET製品 上市
2023年 低発泡容器 上市
2024年 新OPPシートの開発成功
耐寒PPiP-タルク製品 上市
2025年 定位置成形技術を確立

生産・リサイクル強化

2012年 関東八千代工場
2014年 総合研究所
2016年 中部エコペット工場
2017年 関東エコペット工場
2018年 エフピコアルライト本社工場
エフピコグラビア本社工場
2022年 中部第一工場
2023年 関西工場
2024年 エフピコアルライトダンボール工場
関西選別センター

物流網強化

2011年 中部ピッキングセンター
2014年 福山クロスドックセンター
八王子配送センター
2018年 エフピコインターパック物流倉庫
2020年 九州配送センター拡充
福山ハブセンター拡充
2021年 中部クロスドックセンター拡充
2023年 関西ハブセンター

人への投資

2014年 人材開発研修センター
2018年 広島営業所
エフピコイシダ本社
2019年 エフピコインターパック本社
単身寮PicoHouse(総戸数:473戸)
2017年 1号館(150戸)
2号館(102戸)
2020年 3号館(63戸)
4号館(18戸)
2022年 5号館(140戸)

株主との対話の推進について

● 機関投資家向け 各種説明会の実施（2024年度～2025年度）

開催時期	説明会名称	内容	主な登壇（スピーカー）
決算関連			
11月 5月	第2四半期 決算説明会 決算説明会	業績予想および 企業価値向上に向けた取り組み	代表取締役会長 代表取締役社長 専務取締役（経理財務・IR担当）
その他イベント			
2024年 9月	国内投信 個人投資家向け説明会	エフピコ方式リサイクルの認知向上、当社製品の体験	IR担当
2025年 3月	国内証券 海外投資家カンファレンス	業績動向および成長戦略	代表取締役会長、専務取締役（経理財務・IR担当）
2025年 3月	国内投信 個人投資家向け工場見学	生産・物流・リサイクル工場等の施設見学、成長戦略	IR担当、部門長
2025年 9月	国内証券 スモールミーティング	業績動向および成長戦略	代表取締役会長、専務取締役（経理財務・IR担当）
2025年 9月	国内投信 個人投資家向け説明会	エフピコ方式リサイクルの認知向上、当社製品の体験	IR担当
2025年12月	国内証券 営業員向け説明会	業績動向および成長戦略	代表取締役会長

● 個別対話概要（2024年度～2025年度）

投資家概要	対応者（案件により異なる）	2024年度 延べ人数	2025年度 延べ人数
中長期を中心とした幅広い投資スタイルの国内外機関投資家 多様な担当分野（アナリスト、ファンドマネージャー、ESG担当等）	代表取締役会長、代表取締役社長、独立社外取締役、 専務取締役（経理財務・商事本部・IR担当） 常務取締役（総務人事担当）、サステナビリティ推進室	約270名	約280名

● 個別工場見学（2024年度～2025年度）

対応拠点	対応者（案件により異なる）	2024年度 延べ人数	2025年度 延べ人数
関東、中部、関西、福山	専務取締役（経理財務・IR担当）、部門長	12名	7名

世界初の素材・シート

PP：ポリプロピレン

☆ 耐熱性がある：＋110℃
☆ 耐油性に優れる

★ 発泡が難く、軽量化しにくい
★ コシ強度が低い
★ 耐寒性に劣る
★ 透明性が出難い

耐寒PP/Pタルク

☆従来品である耐寒PPと比較して
プラスチック使用量を25%削減
☆従来品と同等の耐寒衝撃性、天地圧縮強度
重量を保持



新透明PP

☆ 耐熱性がある：＋110℃
☆ 耐油性に優れる

☆ 透明性がOPSと同等



PS：ポリスチレン



PSP：発泡PS

☆ 成形性が良い
☆ 原材料比率が低い
☆ 軽量化が可能
☆ 断熱性が高い

★ 耐熱性が低い：＋80℃
★ 耐油性に劣る

MFP：マルチFP

：発泡PS

☆ 成形性が良い
☆ 原材料比率が低い
☆ 断熱性が高い
☆ 耐油性に優れる

☆ 幅広い温度帯をカバー
冷凍温度帯から110℃
☆ コシ強度がある
☆ 軽量化が可能



PET：ポリエチレンテレフタレート

☆ 透明性が高い
☆ 耐油性に優れる

★ 耐熱性が低い：＋60℃
★ 比重が大きい

マルチFP端材の循環

MSD：マルチソルド

：非発泡ＰＳ

OPET：二軸延伸PET

☆ 透明性が高い
☆ 耐油性に優れる

☆ 耐熱性がOPSと同等：＋80℃
☆ 延伸により軽量化が可能

★ 成形が難しい



OPS：二軸延伸PS

☆ 透明性がある
☆ 耐熱性：＋80℃

★ 耐油性に劣る
★ 軽量化に限界

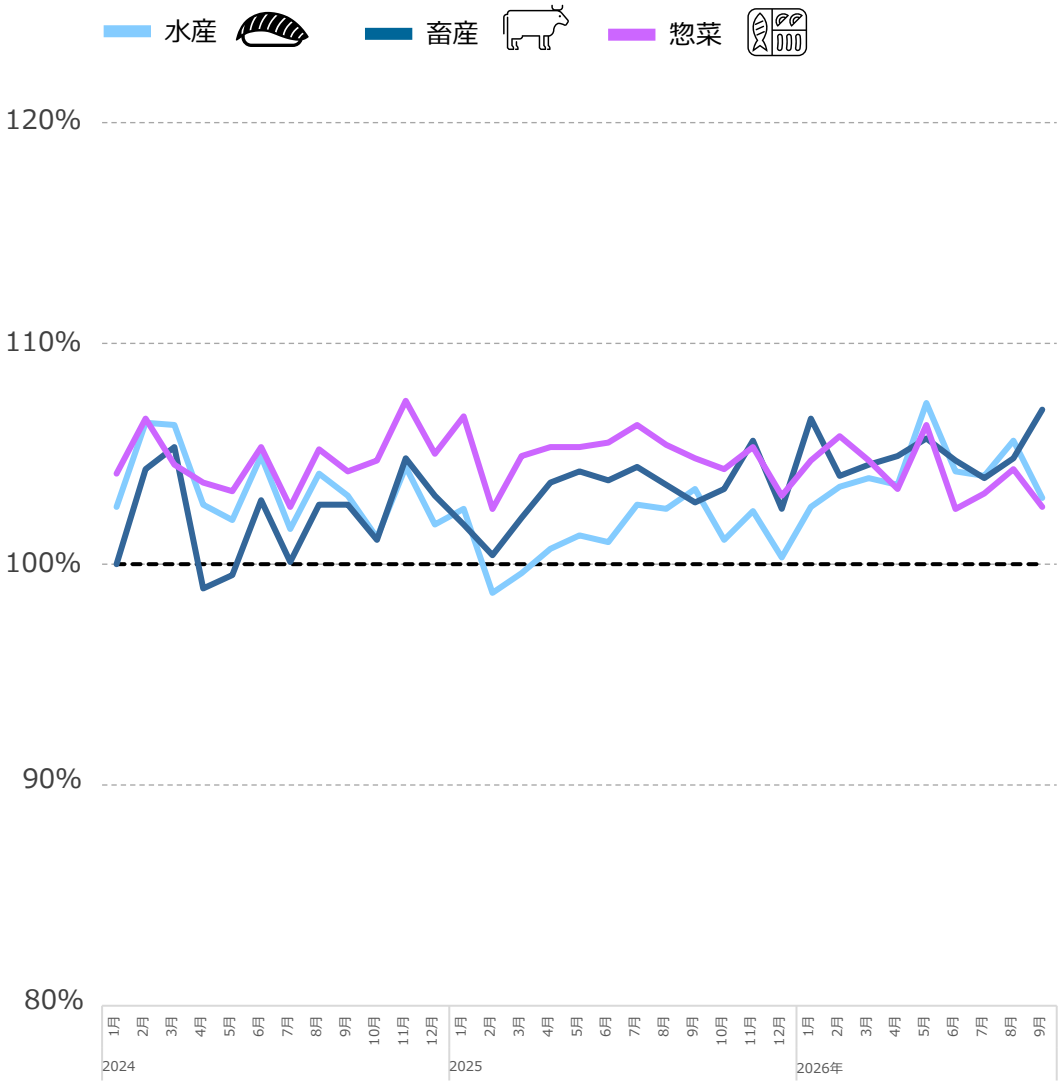
※ 中央円グラフ；素材別 シェア （重量ﾍﾞｰｽ）

小売動向（2024年1月～2026年9月）

出所：一般社団法人日本スーパーマーケット協会（全店、売上前年比）
出所：一般社団法人日本フランチャイズチェーン協会（全店、前年比）

エフピコ

スーパーマーケット



コンビニエンスストア



中食市場の拡大

出典：一般財団法人 日本惣菜協会「2026年版惣菜白書」

内食市場
約**42.7**兆円（2024年）

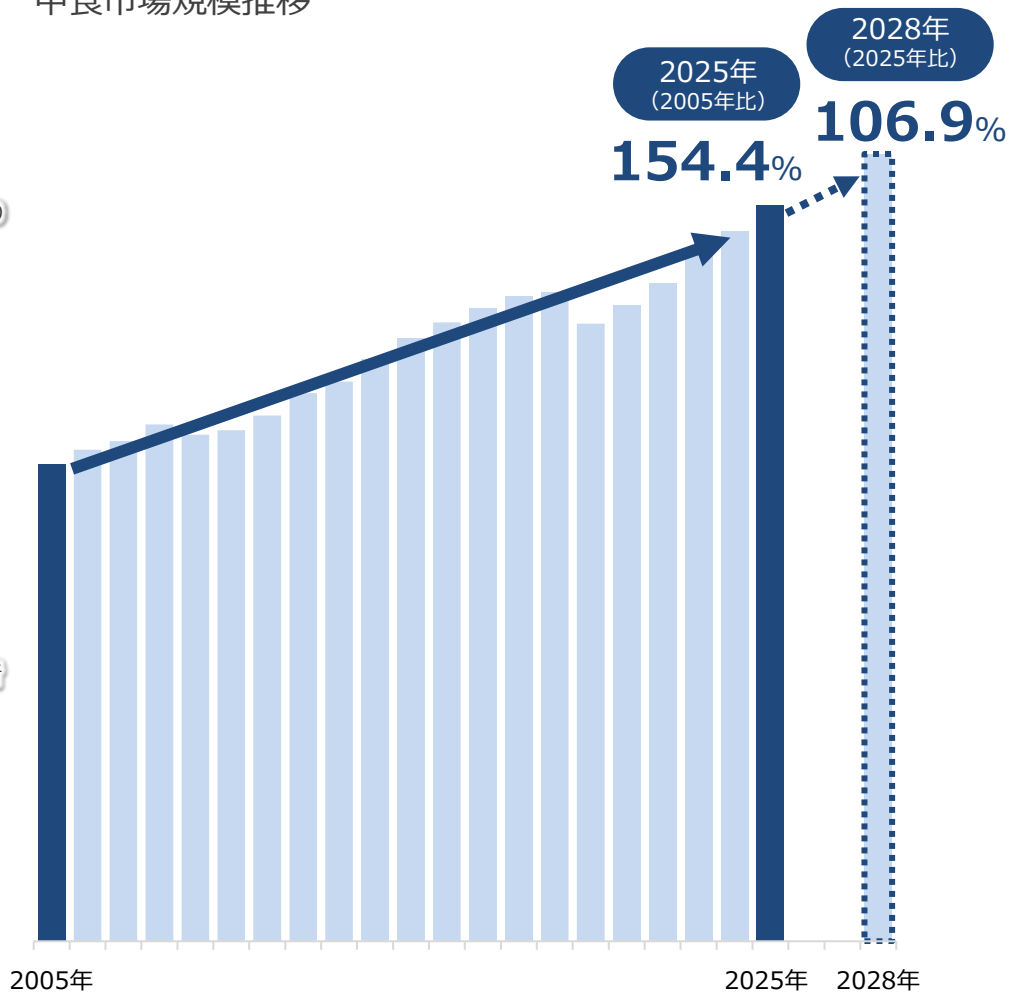
惣菜マーケットの拡大

中食市場
約**11.7**兆円（2025年）

テイクアウト デリバリーの定着

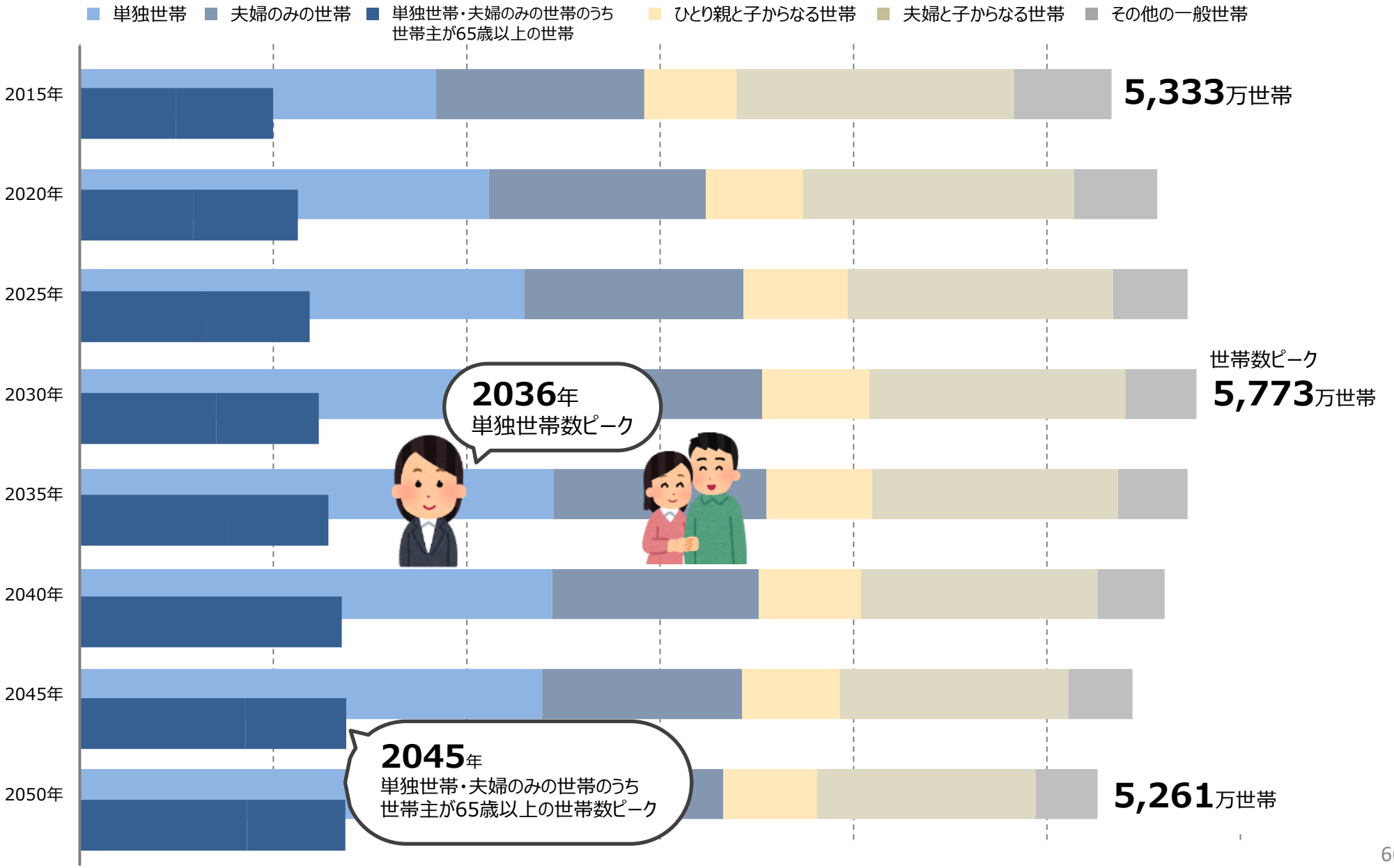
外食市場
約**24.1**兆円（2023年）

中食市場規模推移



世帯数の推移

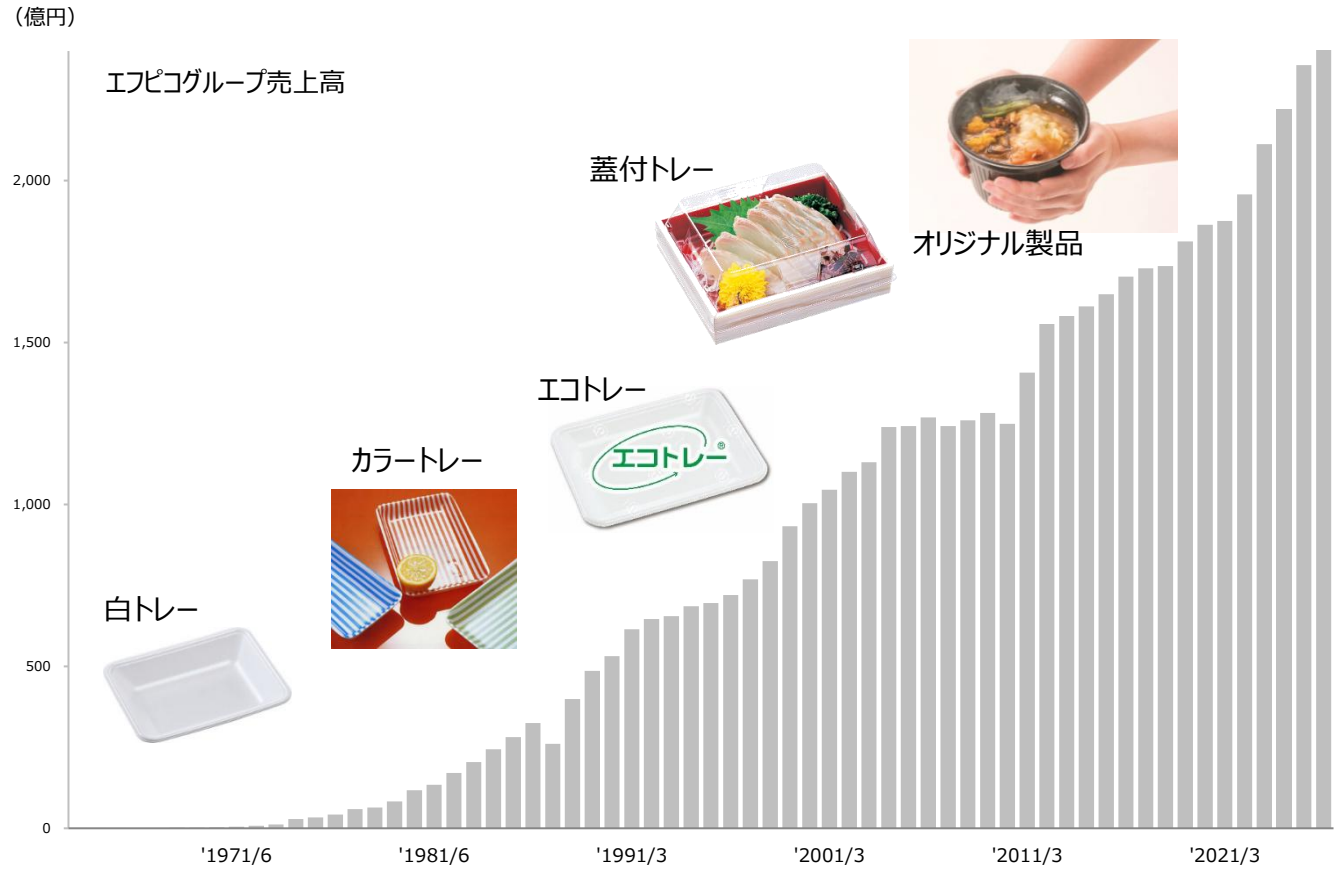
出典：国立社会保障・人口問題研究所データより、当社グラフ作成



食品容器マーケットの推移と当社業績の拡大

マーケットの変化に応じた製品を提供／当社製品がマーケットの変化を創出

スーパーマーケット ＋ コンビニエンスストア ＋ 食品メーカー（中食向け） ＋ テイクアウト デリバリー

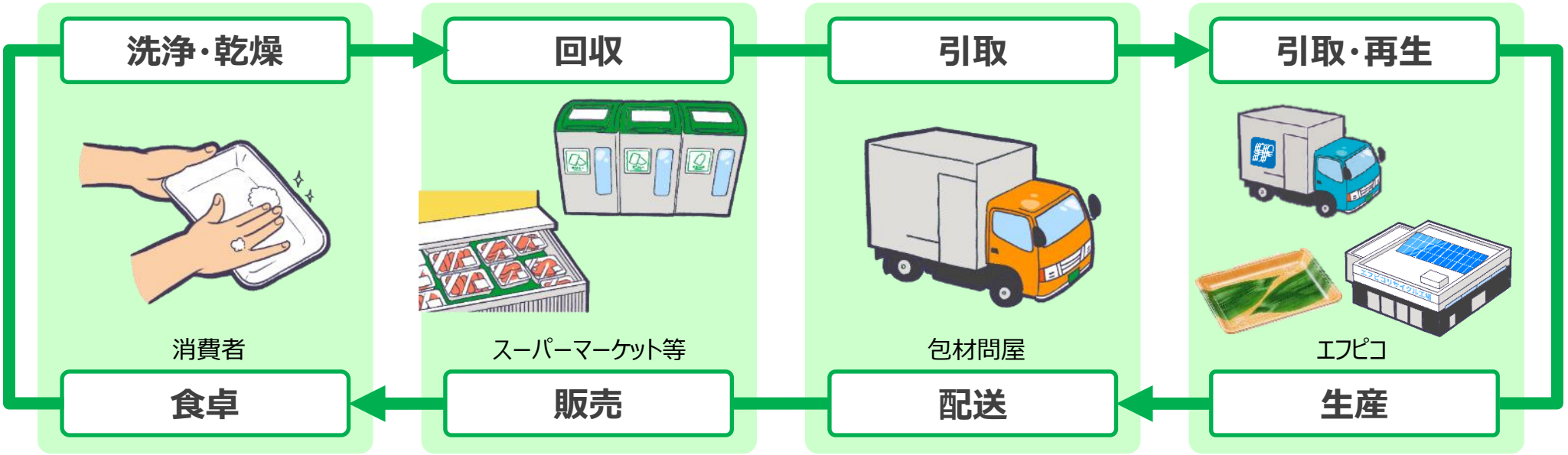


- 冷凍食品
- 病院・介護施設
- M&A
- エコ・軽量化製品

マーケットの変化

- 人手不足
- 食品ロス
- 原料高騰
- 少子高齢化
- 業界再編
- 環境意識

エフピコ方式のリサイクル



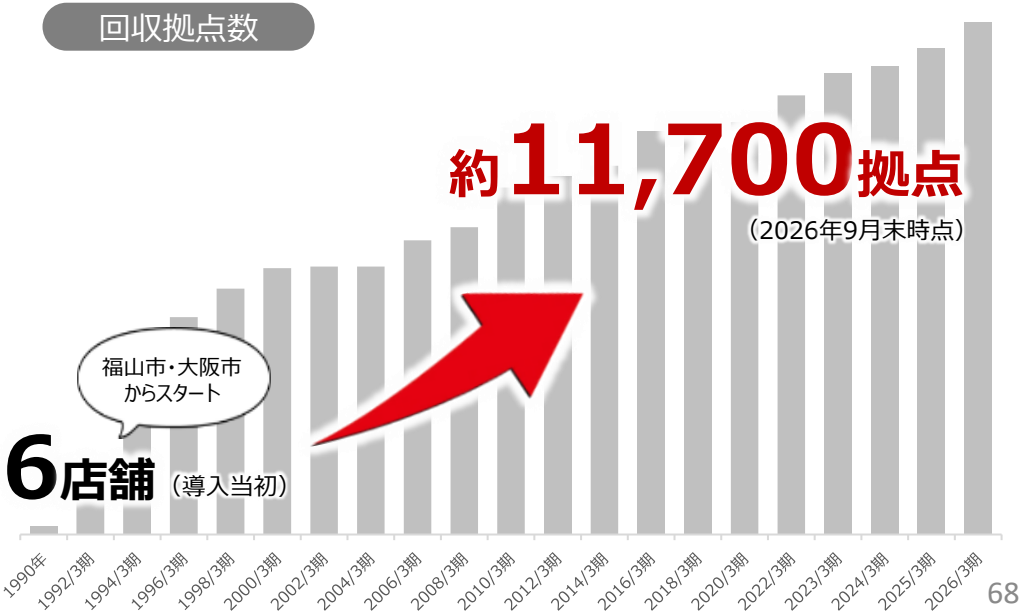
歴史

容器包装から紙包装へ変更

1980年　広島ゴミ問題
1990年　米国 マクドナルド不買運動
1990年　エフピコ方式のリサイクル開始
1992年「エコトレー」の販売開始
1995年　容器包装リサイクル法制定
1997年　京都議定書
2008年　透明容器のリサイクル開始
2011年　PETボトルのリサイクル開始
2012年「エコAPET」の販売開始
2015年　パリ協定
2021年　プラスチックに係る資源循環の促進等に関する法律制定



回収拠点数



お店を発着点としたリサイクル「ストアtoストア」

お店で使用・販売した食品トレー・ペットボトル は
そのお店で資源として回収 し、食品トレー・透明容器に再生して、
また そのお店で積極的に使用する



プラスチック資源の回収

※枚数・本数は、標準的なグラム数にて換算
PSP：4g、透明容器：10g、PETボトル：25g

		回収重量				
		’22/3実績	’23/3実績	’24/3実績	’25/3実績	’26/3実績
容器 (PSP・透明容器)	回収ルート スーパーマーケット店頭 指定法人ルート	10,300トン (約22億枚)	10,400トン (約22億枚)	10,500トン (約22億枚)	11,000トン (約23億枚)	11,800トン (約24億枚)
PETボトル 	回収ルート 指定法人ルート スーパーマーケット店頭 事業系ルート	73,000トン (約29億本)	81,000トン (約32億本)	80,000トン (約32億本)	79,000トン (約32億本)	78,200トン (約31億本)
回収重量合計		83,300トン	91,400トン	90,500トン	90,000トン	90,000トン
製品販売重量に対する 使用済み製品の回収重量比率		40%	44%	44%	42%	42%

＊一部プラント修繕

エコ製品によるCO2削減への貢献

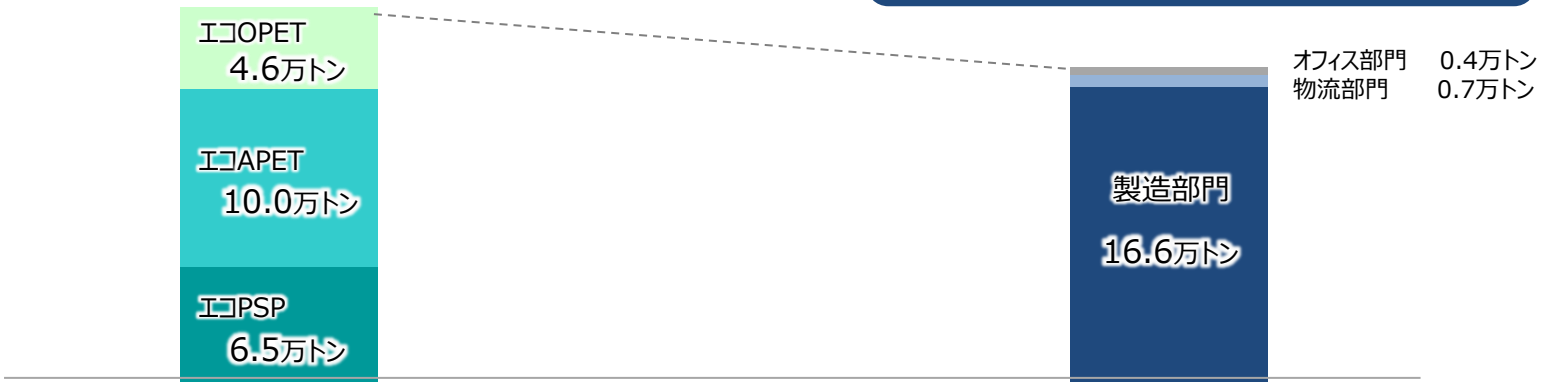
エコ製品の製造・販売を通じたCO2削減効果が事業活動による当社グループCO2排出量を3年連続で上回る

エコ製品の製造・販売で削減できたCO2排出量

2025年3月期 **20.9**万トン → 2026年3月期 **21.1**万トン

グループCO2排出量

2025年3月期 **18.2**万トン → 2026年3月期 **17.7**万トン



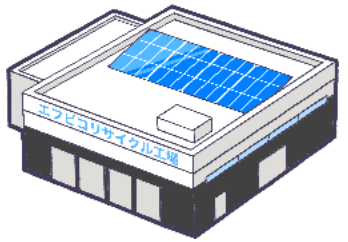
CO2削減量の増加要因

① 太陽光発電による再生エネルギー導入
エコPSP製品のCO2削減効果 *37*%

② エコ製品の販売が好調
102.1%（2026年3月期前年比 枚数）

CO2排出量の減少要因

再生エネルギーの活用
省エネルギーの推進



エコ製品の販売拡大

2025年11月5日
中部第一工場 太陽光発電稼働開始

エコ製品の販売実績

エコ製品 売上推移（億円）

エコ製品売上

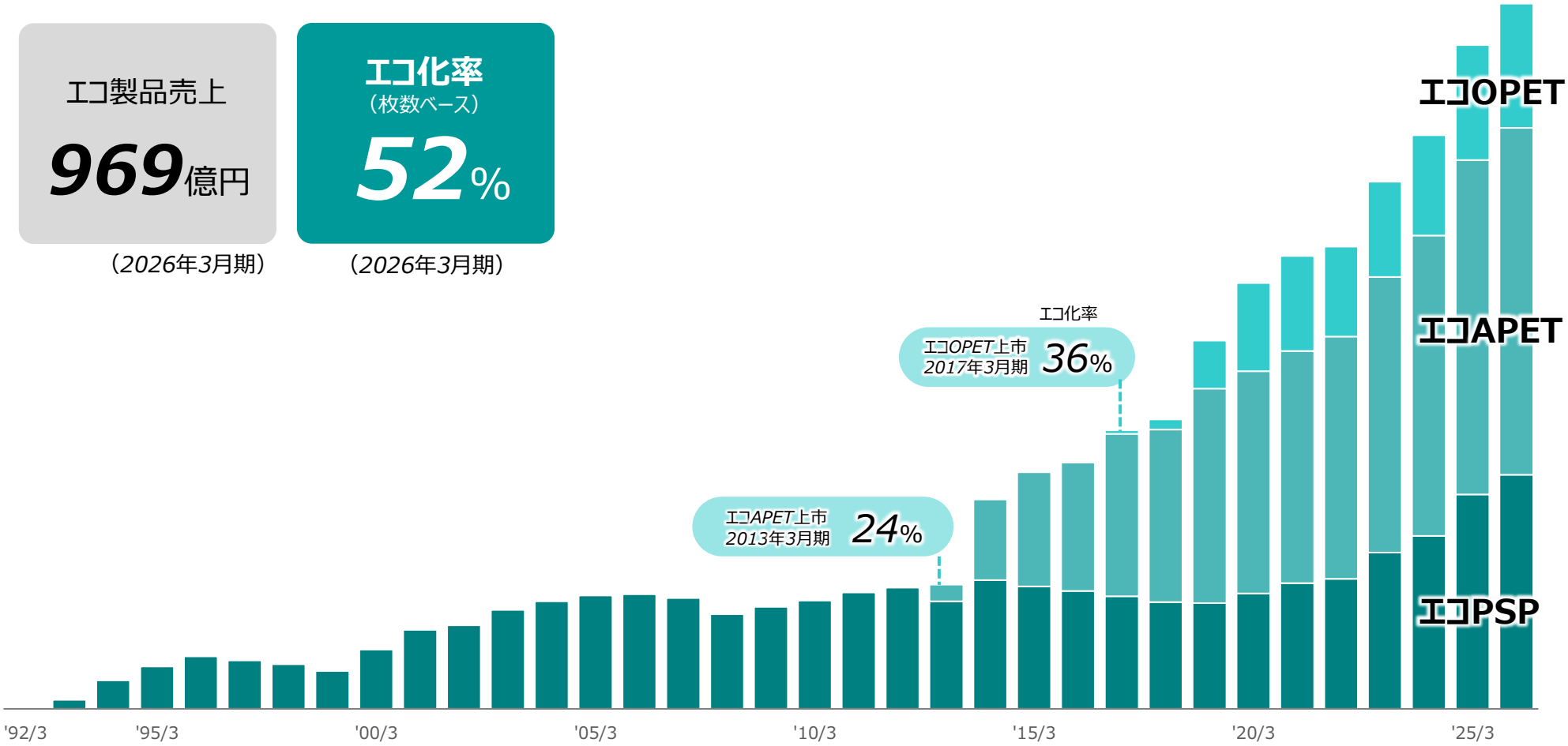
969億円

（*2026*年*3*月期）

エコ化率
（枚数ベース）

52%

（*2026*年*3*月期）



オリジナル製品拡大による収益性向上

2026/3期 製品売上構成比（枚数ベース）

従来素材
31%

オリジナル製品
69%

従来素材

従来素材
新製品

同じ素材で競合

MFP
MSD
透明PP

エコ製品

オリジナル製品の比率を向上

非発泡容器（HIPS）

切り替え

- **シェアの維持・拡大**
- **価格交渉力**
- **原料価格影響の抑制**
- **プラスチック使用量削減による原価低減**



新低発泡PSP容器
▶発泡化により原価低減



APデリオ・MSDデリオ
▶自動化に対応した強度と軽量化を両立



耐寒PPiP-タルク
▶冷凍マーケットの開拓



エコPSP
▶溶解分離リサイクルによる増産



エコAPET
▶押出機増設によってエコ原料の生産能力15%増強

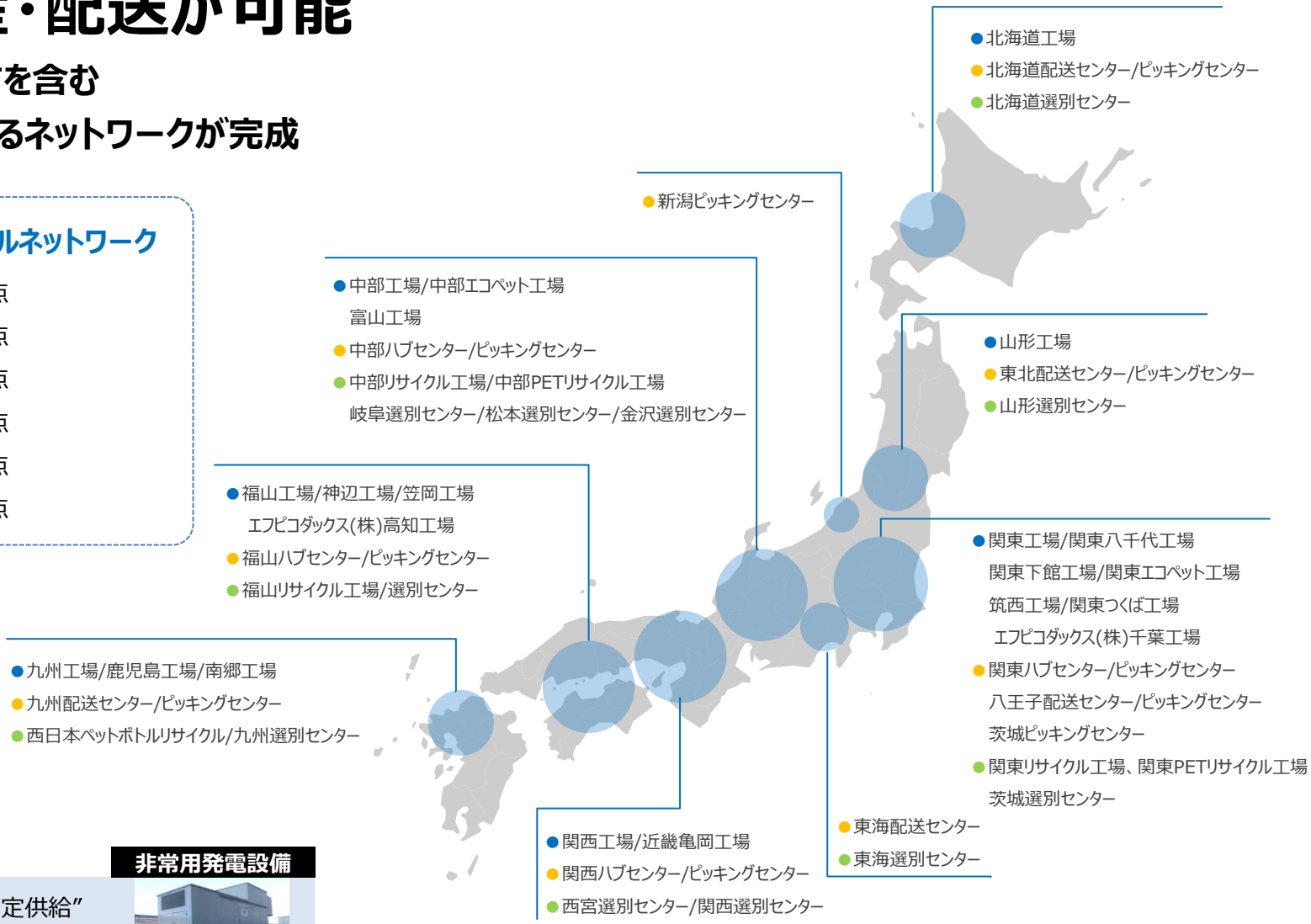
全国を網羅する生産・物流拠点

各エリアで 生産・配送が可能

半径100kmで主要都市を含む
全人口の85%をカバーするネットワークが完成

エフピコの製造・物流・リサイクルネットワーク

● 生産工場	21拠点
● 配送・ハブセンター	9拠点
● ピッキングセンター	10拠点
● PSPトレーリサイクル工場	3拠点
● PETボトルリサイクル工場	3拠点
● 選別センター	11拠点



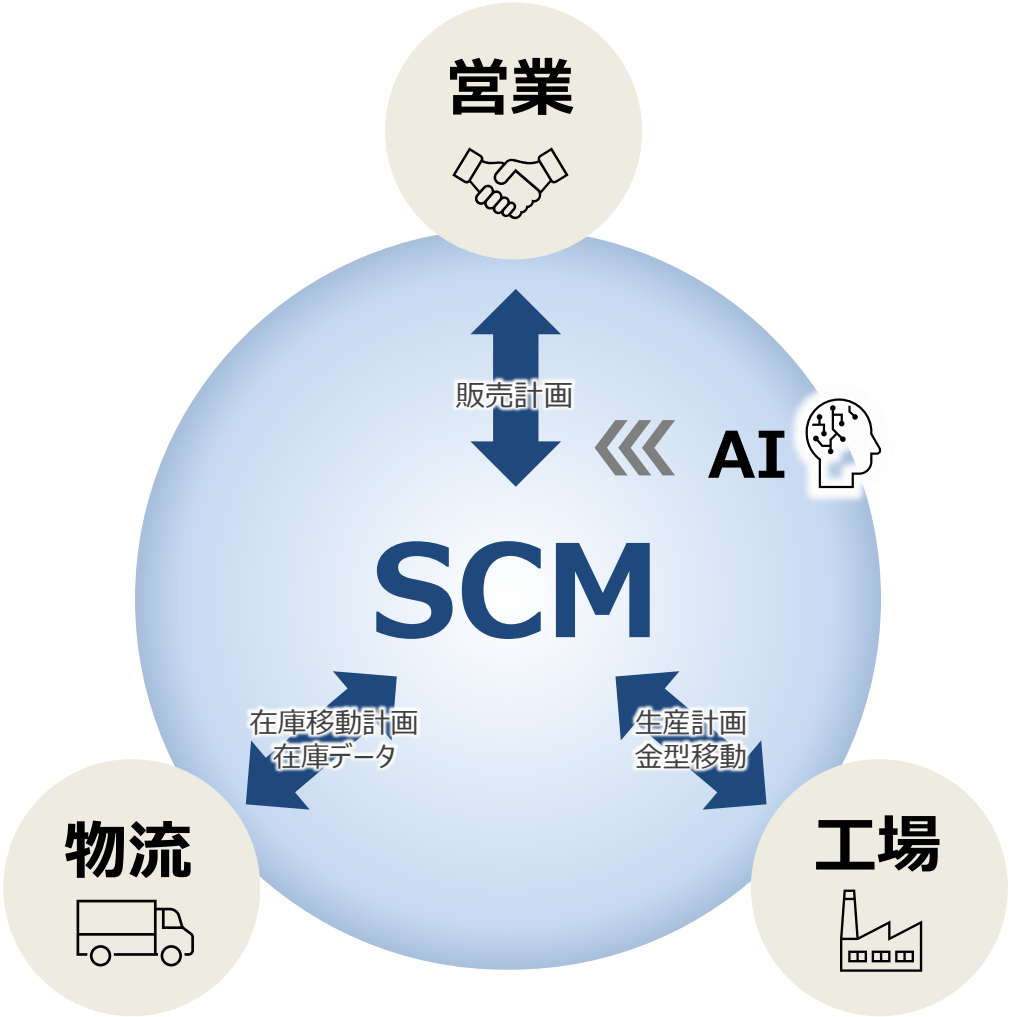
非常用発電設備



ＢＣＰ(事業継続計画) “災害時の安定供給”
全国の物流施設すべてに非常用発電設備を設置
72時間 の 電力供給 を 確保

サプライチェーン・マネジメントシステム（SCM）

安全・安心な食生活を支える安定供給



- ☑ 約12,000アイテムの品揃え
- ☑ 適切な在庫水準を維持
- ☑ AI活用による
  販売予測の精度向上・効率化

人材の確保・定着に向けた投資① 自動化・省力化



単純なモノの移動の省人化

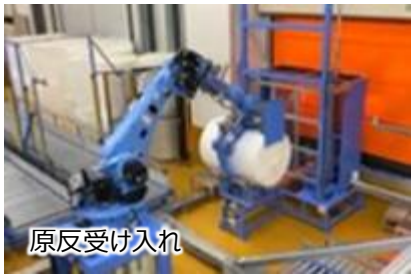
重労働の軽作業化

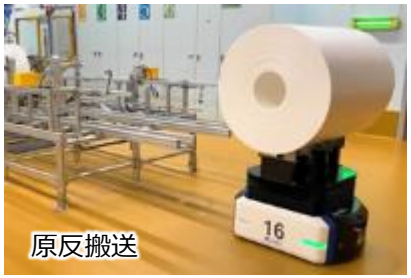


頻度の高い作業の省人化



生産部門









物流部門







- AGV：33台（‘26/3期）
- AGF：6台（‘26/3期）
- ソーター：5センターに導入

自動化設備導入による効果

就労環境の改善

職域の拡大

付加価値業務への人員振替が可能

人材の確保・定着に向けた投資② 待遇改善

実施年度	内容
2019年3月期	退職金制度の拡充
2021年3月期	給与水準向上（深夜労働手当等の改定）
2024年3月期	製造・物流グループ会社における現場社員を対象に以下を実施 ・給与水準平均の大幅な改定 ・初任給の引き上げ ・休日日数の増加 （2022年 104日、2023年 114日、2024年 116日、2025年 120日）
2027年3月期	13年連続ベースアップ

外部評価機関によるESG評価

レーティング

FTSE（英）

2026年6月

3.9

MSCI（米）

2026年9月

BBB

CDP（英）

2026年1月

A-



SUSTAINALYTICS （蘭）

2026年6月

14.9 **(Low Risk)**
※低い程良い

ESG指数

免責事項：https://www.fpco.jp/company/evaluation.html

FTSE JPX Blossom Japan Index

FTSE JPX Blossom Japan Sector Relative Index

2026 CONSTITUENT MSCI日本株女性活躍指数 (WIN)

Morningstar
Japan ex-REIT Gender Diversity
Tilt Index（GenDi J）

S&P/JPX カーボン エフィシェント 指数

2026 Sompo Sustainability Index

その他外部機関からの評価・活動

外部評価

2026 健康経営優良法人 KENKO Investment for Health 大規模法人部門

女性が活躍しています！

D&I AWARD BEST WORKPLACE for diversity & inclusion 2025

ECO・MARK・AWARD 2024

エコプロアワード 2025 EcoPro Awards

平成２７年度 地球温暖化防止活動環境大臣表彰 We can Save the Earth Minister of the Environment 対策活動実践・普及部門

DIVERSITY MANAGEMENT SELECTION 100 2015

SPORTS YELL COMPANY 2026

Plastics Smart

COOL CHOICE

2016 攻めのIT経営銘柄 Competitive IT Strategy Company

環境関連参画団体

ECO FIRST

CLOMA

J4CE JAPAN PARTNERSHIP FOR CIRCULAR ECONOMY

能力を最大限に活かすダイバーシティー経営

エフピコグループの基幹業務で活躍

障がい者雇用人数　**405**名

障がい者雇用率換算数　**676.5**名

障がい者雇用率　**12.5**%　（2026年3月時点）



製造　食品トレー容器の成形、組立加工、検品、包装



選別　使用済み食品トレー透明容器

お客様の障がい者雇用をサポート

エフピコのサポートで
お取引様を中心に

61社　**785**名

の雇用が生まれました
（2026年3月時点）



● 障がい者雇用に関する評価

▶2026年9月（東洋経済新報社）**「障害者雇用率ランキング」 2位**

▶2022年6月（厚労省）**「障害者雇用に関する優良な中小事業主に対する認定（もにす認定）」** ※エフピコダックス㈱

▶2019年1月（厚労省）**「H30年度　障害者活躍企業」認証** ※エフピコダックス㈱

障害者雇用 中小事業主認定 もにす

施設見学のご案内

【随時受付】
経営企画室 IR広報課：M_irkoho@fpco-net.co.jp

最新鋭の 生産 物流 リサイクル をご覧いただけます







